

School of International Studies

Utsunomiya University 2024



宇都宮大学

UTSUNOMIYA UNIVERSITY

国際学部

国際学部設置30周年（2024年）記念事業

＜ご挨拶―学部設置30周年によせて＞ 国際学部長 中村 真

宇都宮大学国際学部は、1994年10月に「実践的国際人」の育成を目的として、国立大学で初めての国際学部として設置されました。現在まで、国立大学唯一の国際学部です。これまでに、国内外で活躍している2800人を超える卒業生を社会に送りだしてきました。設置30周年を迎えるにあたり、これまでのみなさまのご支援に感謝いたしますとともに、これからの国際学部の発展に結びつけられるよう、30周年記念事業を企画しております。国際学部の教育研究、社会貢献についてご理解を賜り、さらなるご支援をお願い申し上げます。

＜記念事業の概要＞

1 卒業生に関わる企画（2022～24年度）

（1）卒業生へのインタビュー企画（2022年度～2023年度）

国際学部での学びが、これまでのキャリアにどのように活かされているかなどについて、インタビューを実施し、動画を作成するとともに、アーカイブ化を計画しています。

（2）卒業生が登壇するシンポジウム企画（2024年度）

以下の日時に、対面とオンラインでのハイブリッドで開催予定です。

2024年10月12日（土）午後 会場 大学会館2階多目的ホール（予定）

2 学部関係教員が執筆する書籍出版企画（2024年10月刊行予定）

（1）学生や一般市民を対象とした新書（学際的な学びの意義・特徴とは何か）

（2）学部生を対象とした学術書（国際学の倫理・方法を巡る問題とは何か）

新書は、新入生の教材としても活用することを予定しています。

3 30周年記念記録集作成（2024年10月刊行予定）

学部設置30周年の記念記録集の発行を計画しています。

4 国際学部30周年記念フォトイメージ・動画コンテスト（2023年度）

国際学部の学生と教職員を対象にフォトイメージ・動画コンテストを実施しました。応募された多彩な作品を、今後の記念事業において活用します。その一部を、このページでも紹介しています。



＜記念事業に関するご寄付のお願い＞

社会との共創を見据えた今後の新しい国際学部の方向性を示す3つの事業を実施するために、皆様からのご寄付をお願いしております。詳細は、宇都宮大学国際学部ホームページの「国際学部設置30周年記念事業特設サイト」<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/30th/donation-30th.html>をご覧ください。寄附は確定申告を行うことにより税制上の優遇措置が適用されます。

＜卒業生へのインタビュー企画 随時更新中＞

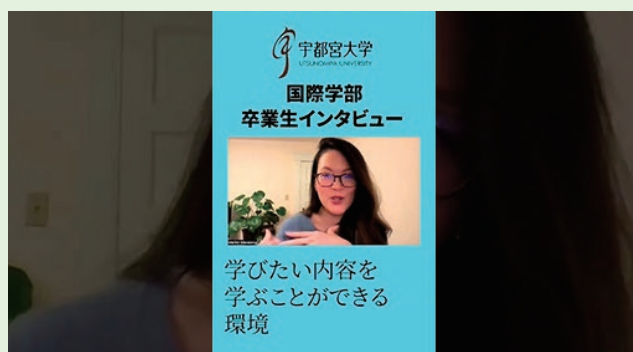
国際学部のホームページで御覧いただけます



『留学で壊すことができた偏見』

三澤拓巳さん

2019年度卒。浙江大学（中国）に留学。市役所勤務。



『学びたい内容を学ぶことができる環境』

マナラング・マリキット・グルエットさん

2011年度卒。フィリピンから留学。名古屋の大学で教鞭をとった後、現在、米イェール大学勤務。



『多種多様な「人」とのつながり』

秋元明日香さん

2013年度卒。アジア、アフリカとの国際協力について学び、難民雇用のためのソーシャル・ビジネスに取り組む。



『国際学部だから出会えた「人」と「考え方」』

椎名毬子さん

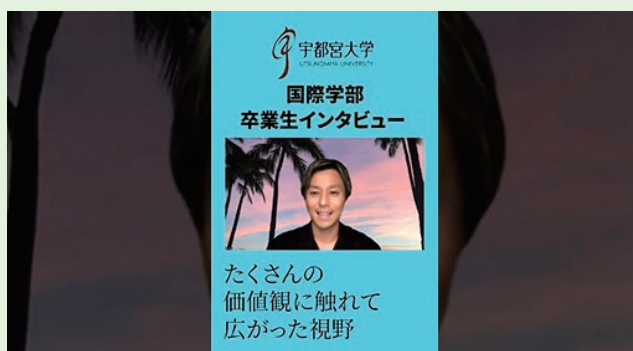
2017年度卒。医療機器会社勤務、営業・顧客サービスを担当。



『国際学部で学んだからいまここに自分がある』

大畑美優紀さん

1999年度卒。タイ在住。日系企業勤務。国際学部同窓会支部を立ち上げ。



『たくさんの価値観に触れて広がった視野』

庄司和幸さん

2004年度卒。航空会社勤務（CA）。コロナ禍を受け休職し、現在米国にて留学中。

新たな世界、新たな出会い、新たな学び…

ここで過ごす時間は、君が描く将来の夢へとつながっています。



Contents

国際学部設置30周年（2024年）記念事業	02
国際学部に関心をお持ちの皆様へ	06

01 国際学部概要

アドミッションポリシー	07
プログラムの概要	07
国際学部国際学科の学位授与の方針	07
教育のプログラム	08
学部の専門科目	09
国際キャリア教育プログラム	10
外国語臨地演習	11
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター	12
教員紹介	14
国際学科	14
留学生・国際交流センター	19
宇都宮大学国際学叢書	20
国際学部新書	21

02 キャンパスカレンダー

03 留学情報

協定校紹介	23
留学体験談	24

04 国際学部学生紹介

学生紹介	26
学生活動紹介	28

05 卒業後の進路

取得可能な資格等について	30
進学情報	30
就職情報	31

06 アクセス

Road to the Dream

国際学部に関心をお持ちの皆様へ



国際学部の魅力：創設30周年を迎えて

国際学部長 中村 真

創設30周年と新しいミッション

国際学部は、2024年10月に創設30周年を迎えます。創設にあたり、人材育成の目標として「実践的国際人」の育成を目指すこととともに、多様性や多文化共生、持続可能性といったあるべき社会の姿を示し、その実現に向けた教育研究を推進することを掲げました。これらの目標は、30年を経た今も色あせるところか、その必要性が社会的にも認識され、ますます重要性を高めています。国際学部は、2022年に新たなミッションを設定しましたが、以下に引用するその前文においても、これらのキーワードを理念や目標として掲げています。

学部設置からおよそ30年を経過する現代において、特に、コロナ禍を受けて世界的に顕在化した分断や格差の拡大は、これまで構築されてきたグローバルな協力・協調関係の脆弱さとともに、その重要性を改めて示すことになりました。設置時に掲げられた「実践的国際人」育成の目的は、グローバル化した社会における共創を実現し、推進するうえで、これまで以上にその必要性を高めています。このような状況を踏まえ、国際学部は、深刻さを増すグローバルな問題・課題を、人文社会科学をはじめとした幅広い視点から理解し、国内外における多様なステークホルダーとの相互協力と連帯、共創により、その解決や対応に貢献することを目標として、「インクルーシブで持続可能な社会の実現に貢献する教育研究の推進」を新たな理念とすることにしました。対面・オンラインネットワーク双方において発揮される豊かなコミュニケーション能力と、複数言語の運用能力を備えることで、問題や課題への対応や解決に主体的、積極的に貢献しようとする、グローバル実践力を涵養するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえ、国内外のさまざまな地域における言語、文化、社会、政治、経済等の多様性を前提に、多文化共生に関する学際的な学びによって得られる専門的知識を活用し、必ずしも明確な答えがあるわけではない不確定な状況において、自らの思考の枠組みそのものを問い直す複眼的・批判的な思考力をもつ新たな「実践的国際人」の育成を目指します。（2022-27年度国際学部ミッション前文）。

国際学部の魅力：これまでとこれから

国際学部の特徴は、多様性、学際性、多言語という3つの言葉で表すことができると思います。国際学部は、留学生、帰国生、外国人生徒、社会人を対象にした入学選抜を実施して、異なる背景をもつ学生のみなさんを受け入れています。国内の入学者は、北は北海道から南は沖縄まで、様々な地域からこの宇都宮の地に集まり、さらに、海外協定校からの交換留学生も加わり、共に学んでいます。教員の国籍もまた、様々です。このような多様な背景をもつ人の集まりが、複雑でありながら豊かな関係性を産み出し、グローバル化した環境を自然に体現することができるのです。

また、国際学部では、内外の様々な地域や国家、国家間関係を対象にした、思想、芸術、文化、文学、歴史、政治、経済、法律など、人文社会科学を中心にした、多岐にわたる学問分野の授業が開講されています。学際的な知識を獲得することで、より広い視野でものごとを見、考える力を養います。さらに、多言語は、多文化、多国籍などと言い換えることもできます。国際そのものとも言え、多様性と学際性の双方に深く結びついています。複数の外国語を学ぶことは、一つの外国語を学ぶだけでは気づくことができない、外国語の多様な差異や共通性を知ることにつながります。多言語を学ぶことは、そのこと自体が、他の国や他の文化を知ることであり、多角的な視点を身につけることでもあります。

これらの特徴は多くの入学志願者を惹きつける国際学部の魅力であるとともに、このパンフレット冒頭で紹介されている卒業生へのインタビューでも示されているように、これまでの30年間の人材育成の成果に結びついています。インタビューの動画をご覧くださいと、卒業生たちが、国際学部での学びがこれまでのキャリアにどのように結びついているかを、学生時代の楽しい思い出とともに、生き生きと語ってくれています。是非、動画をご確認ください。

最後に、国際学部で学びたい、卒業生を採用したいなど、教員と共同研究をしたい、さまざまな観点で国際学部に興味関心をお持ちのみなさま、是非、このパンフレットと国際学部HPをご覧ください、私たちにご連絡・ご相談ください。

国際学部概要



アドミッション ポリシー

求める学生像

- ① 知識・技能
 - ・ 高等学校教育課程の総合的学力を基礎とした広く基本的な知識を持ち、外国語の運用能力と、論理的な作文能力を備えている人
- ② 思考力・判断力・表現力
 - ・ 多文化共生社会に関する問題について主体的に探求し、学修意欲に優れ、多様な現象について論理的に考え、思考と感性を表現することに適性をもっている人
 - ・ 国際的な問題を説得的に論ずることのできる能力や外国の学校での勉学経験から得られた国際的な高い問題意識、社会人経験から得られた深い問題意識、外国人として4年間勉学を続けようとする強い意志などをもっている人
- ③ 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・ 多様な外国語や情報収集・分析・発信の方法を学び、多様な地域や文化を背景とする人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
 - ・ 多様な地域・文化を背景とする人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
 - ・ 世界の様々な国と地域に関心を持ち、グローバル化する地域と世界の多文化共生のために自分の力を活かしたいと望んでいる人

プログラムの概要

国際学科では、グローバル化する地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解き、社会を構想していく能力やコミュニケーション能力、行動力、協調性を備えた、グローバルな実践力をもつ人材の育成をめざしています。

国際学部国際学科の学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

宇都宮大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、国際学部国際学科では、「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と、以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士（国際学）」の学位を授与します。

- （1）世界の様々な国や地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解することができる。
- （2）多文化共生社会における諸課題について、その問題構造を踏まえつつ、異なる立場の人々への想像力や共感を土台として、学際的・多角的・専門的に考察し、価値選択や目標設定を行うことができる。
- （3）世界の様々な国や地域で活躍する基盤としての複数言語運用能力とコミュニケーション能力を備える。さらに自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し、適切な方法を用いて比較考察的・批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えて研究成果を文章化し、また口頭で発表して生産的に議論し、課題解決のために実践的に行動することができる。
- （4）異なる文化や社会のあり方を尊重しつつ、21世紀型グローバル人材（グローカル人材）としてグローバル化する地域と世界の問題解決に積極的に関わることができる。

定

員

■ 国際学科 入学定員 84名
 一般選抜（前期）38名 推薦36名 社会人若干名
 帰国生2名 私費外国人留学生5名 外国人生徒3名
 ※第3年次編入学を実施しています。

教育のプログラム

グローバルな実践力を 身につける 教育システム



多文化共生実現のために国内外で活躍する
21世紀型グローバル人材

①

多文化共生のための
専門的知識を体系化

多文化共生概論

国際関係論

異文化間
コミュニケーション

Global Civil Society

②

コミュニケーション能力
海外での行動力養成

国際キャリア教育

International Career
Seminar

海外フィールドワーク演習

国際キャリア実習
国際インターンシップ

③

外国語運用能力の強化

外国語能力強化
プログラム

International
Communication Seminar

Foreign Language Learning
and Communication

海外での学習

外国語臨地演習
(短期海外留学)

学べる外国語

Foreign languages you can learn

英語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・
ドイツ語*・ロシア語*・タイ語*・ポルトガル語*

※英語に加えて、フランス語、中国語、韓国朝鮮語、スペイン語のうち1つ
を初修外国語として選んだうえで、希望者は*印の付いた外国語も学習
できます。





学部の専門科目

基礎科目

多文化共生コア科目

多文化共生概論、多文化共生コア
(国際関係論、異文化間コミュニケーション、Global Civil Society)

多文化共生基礎科目

多文化共生基礎 (Comparative Study of Culture、言語学、文化人類学、
芸術文化論、国際法、国際政治論、国際経済論、国際社会論)

グローバル実践力基礎科目

グローバル実践力基礎演習Ⅰ、グローバル実践力基礎演習Ⅱ

専門外国語科目

Foreign Language Learning and Communication、フランス語専門基礎A、
フランス語専門基礎B、中国語専門基礎A、中国語専門基礎B、韓国朝鮮語専門基礎A、
韓国朝鮮語専門基礎B、スペイン語専門基礎A、スペイン語専門基礎B、English for
Current Events、Academic English Writing、Presentation and Discussion、
Directed English Reading、Directed English Writing、Advanced Integrated
English A・B、フランス語講読A・B・C・D、フランス語会話、フランス語文章表現、
中国語講読A・B・C・D、中国語会話、中国語文章表現、韓国朝鮮語講読A・B・C・D、
韓国朝鮮語会話、韓国朝鮮語文章表現、スペイン語講読A・B・C・D、スペイン語会話、
スペイン語文章表現、外国語臨地演習 (英語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語・
スペイン語) [外国語特別演習 ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、ロシア語Ⅰ・Ⅱ、タイ語Ⅰ・Ⅱ、
ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ、外国語臨地演習 (ドイツ語、タイ語)]

グローバル専門科目

地域研究系

アジア太平洋文化社会研究グループ

民族誌学、アジアの歴史と思想、近現代中国論、中国文化論、韓国
文化論、タイ都市社会論、東南アジア論、中東地域研究

欧米文化社会研究グループ

フランス文化論、イギリス文化論、イギリス文学史、アメリカの
経済と社会、アメリカ文化論、アメリカ文学史、Introduction to
Latin American Studies、Latin American Politics and Society

日本文化社会研究グループ

日本文化論、日本史概説、日本語論、日本語史、Japan's International
Relations、地域社会論、日本史特講、地域福祉論、社会福祉学概論、
地方自治論、スポーツ・余暇政策

地域研究専門研究 (海外体験) Ⅰ・Ⅱ

異文化理解・コミュニケーション系

比較文化社会研究グループ

哲学概論、表象文化論、データサイエンス
とエリアスタディーズ、Cultures of
the English-Speaking World、East/
West: A Comparative Perspective、
公共政策入門、行政学、社会調査法入門、
世界の歴史と文化、観光概論、観光地理学

言語・コミュニケーション研究グループ

Linguistic Typology and Language
Communication、Phonetics and
Phonology、Learning a Different
World through English、英語学特講義A・B、
言語と認知科学、日本語教育と国際協力、
対人コミュニケーション論、情報ネットワーク概論

異文化理解・コミュニケーション専門
研究 (海外体験) Ⅰ・Ⅱ

国際協力・共生系

国際協力研究グループ

Theory of Global Governance、移民と
多文化教育、環境と国際協力、国際
協力論、途上国経済発展論、グローバル化と
外国にルーツをもつ子どもの教育、Intercultural
Education、International Humanitarian
Law in Theory and Practice、アフリカ論

国際共生研究グループ

ジェンダー論、多文化共生教育、人の国際
移動、International Protection of
Human Rights、国際機構論、地球
環境政策論、ミクロ経済学、マクロ経済学、
財政学、Global Political Economy、
憲法、民法、Disaster Studies

国際協力・共生専門研究 (海外体験) Ⅰ・Ⅱ

国際キャリア教育科目

国際キャリア教育、International Communication Seminar、International Career Seminar、国際キャリア実習、国際インターンシップ、多文化公共圏実践演習 (グローバル) A・B・
C・D、多文化公共圏実践演習 (グローバル) A・B・C・D、多文化公共圏研究演習、海外フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ、グローバルAL 演習Ⅰ・Ⅱ (海外体験)、Global Management: Asia and Development、
Risk Management、情報と倫理、統計学

専門演習・実験実習科目

アジア太平洋文化社会研究グループ

民族誌学演習、韓国文化論演習、中国
文化論演習、東南アジア論演習、中東
地域研究演習

欧米文化社会研究グループ

フランス文化論演習、イギリス文化論
演習、英語文学演習A、英語文学演習
B、アメリカ文化論演習、
Seminar in Latin American Studies

日本文化社会研究グループ

日本文化論演習、日本語論演習、地域社
会論実習

比較文化社会研究グループ

Seminar in Comparative Study of
Culture、表象文化論演習

言語・コミュニケーション研究グループ

言語学演習、Seminar in Phonetics and Language Teaching/
Learning、日本語教育と国際協力演習、対人コミュニケーション論
実験、情報ネットワーク実習

国際協力研究グループ

Seminar in Global Governance、移民と多文
化教育演習、環境と国際協力演習、国際協力
論演習、アフリカ論演習、グローバル教育論
演習

国際共生研究グループ

人の国際移動演習、多文化共生教育演習、
国際関係論演習、国際法演習、国際政治論
演習、国際経済論演習、Disaster Studies演習

卒業研究関連

卒業研究準備演習、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

国際キャリア教育プログラム※

「グローバル人材」として活躍する道を見つけるためのプログラム

確実に目標に近づくために必要な能力を身につけ、世界へのキャリアパスを獲得しよう！

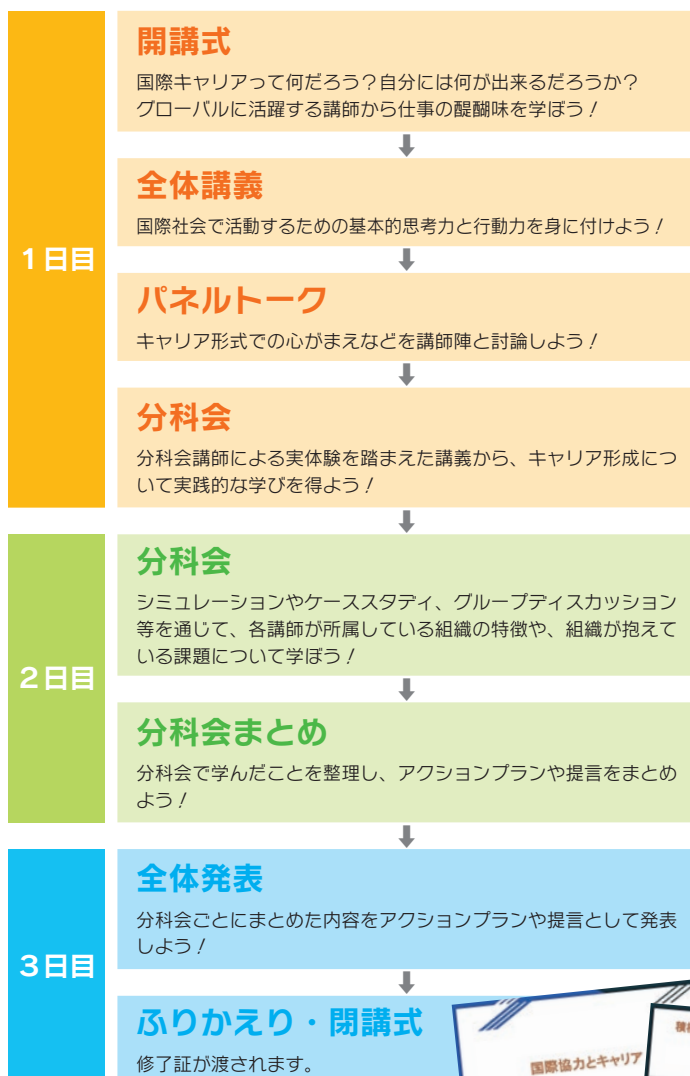
国際分野の第一線で活躍する講師を招き、国際的な仕事の意義や必要な知識を考えます。

分科会では実際の仕事を模擬体験したり、問題を発掘し、その解決方法を考えます。国際社会にアプローチし、キャリア獲得に至る具体的な道すじを明確にしていきます。



「国際キャリア教育」の場合

3日間の集中授業



参加学生達の体験談

Comments

- 今後のキャリア形成に向けて必要な心構えや大学生のうちにやるべきことを学べ、参加して本当に良かった。
- 3日間仲間と一緒にテーマについて深く議論し、充実感、達成感で一杯である。学びを今後の大学生活にいかしていきたい。
- 何より講師の方々のリアルな話を聞いたことで、今後生きていく上でのあり方が参考になった。
- 多数の人が同じ問題を考えるにしても、同じ意見は一つもなく、考え方や見方が沢山あるということを実感し、物事を多面的に、様々な立場から見たり、考えたりすることの大切さを学べた。

- It was an excellent opportunity to communicate on an international platform and engage with participants having different backgrounds to develop our skills related to international careers.
- I got useful ideas for my international career. It was a challenge for me to work with lecturers and group mates by communicating in English.
- I learned a lot of important things for my future career as well as communication skills. The seminar was a great opportunity for me.

夢を叶えて
世界で会おう！

※『国際キャリア教育プログラム』では、集中講義形式のセミナー「国際キャリア教育」及び「International Career Seminar」並びに、国内外の企業・団体等で活動する「国際キャリア実習」の計3科目を開講します。
企画内容は年度により異なります。上記は実施内容の一部です。

URL : <https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>

外国語臨地演習

中国語

国立台湾師範大学（台湾）

外国語臨地演習（中国語）では、国立台湾師範大学で中国語と台湾の文化を3週間学びます。滞在中は、中国語での授業を1日3時間受け、午後には民族舞蹈などの文化授業や、九份や宜蘭に行く課外授業を行いました。

また、台湾大学の学生と協力してワークショップを進め、最終的には中国語を使った発表も行いました。自分たちのテーマに沿って、街頭アンケートや図書館での文献調査など、自主的な活動が中心となりました。

さらに台湾で活躍する日本人の方を中心に、企業訪問や機関訪問を行いました。これを通して、海外で働くことを身近に感じ、自分のキャリアを見つめ直すきっかけとなりました。

この臨地演習では、現地の台湾人と接する機会が多いため、中国語を実践的に使用し、台湾の歴史や文化についても深く知ることができます。なかなか体験できない貴重な機会なので、少しでも興味のある方は参加してみてください。

佐藤 楓 渡邊 早紀



英語

サザンクロス大学（オーストラリア）

約2週間の臨地演習の中で出会う人や訪れる場所、学ぶことのすべてがとても新鮮なものでした。私にとって海外でホームステイをするのは初めての経験だったため、行く前はワクワクする気持ちと同時に、ホストファミリーとの生活に馴染むことができるのかという不安も大きかったです。しかし、ホストファミリーは私を含め一緒にステイした友達を家族のように暖かく迎えてくれ、とても楽しく安心して過ごすことができました。

毎日新しい気づきや発見があり、日本との異なる文化を様々なところで感じました。また、語学力だけでなくそれ以上にコミュニケーションを取る大切さにも気づきました。オーストラリアで経験したこと、感じたことをこれからの学びの糧としていきたいです。海外へ踏み出してみることは、自分を成長させる大きなきっかけになると思います。その一つである臨地演習に、ぜひ皆さんも参加してみてください。

飯田明日香



英語

サラワク大学（マレーシア）

私はこの英語研修に参加するまで、海外に行ったことがありませんでした。初海外の私にとって、目にするもの、匂い、音、すべてが新鮮に感じられ、とてもわくわくしたことを覚えています。研修中は、授業だけではなくローカルマーケットや文化村にも訪れ、異文化を肌で感じることができました。特にローカルマーケットでは、日本では見慣れない色や形、匂いの食べ物がたくさんあり、見ていだけで面白い空間でした。そして、この研修での一番の思い出はサラワク大学のパーティたちと過ごした時間です。私の拙い英語に対しても優しく接してくれて、いろいろな所へ連れて行ってくれました。彼らと過ごすことで英語を話す楽しさに気づき、もっと英語を話したいと思うようになりました。もしこの研修に参加していなければ、このような国籍の異なる素敵な友人に出会うことはなかったと思います。この研修に参加すれば、きっと何か良い出会いに巡り合えると思います。

須田 百香



宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

Center for Multicultural Public Sphere (CMPS)

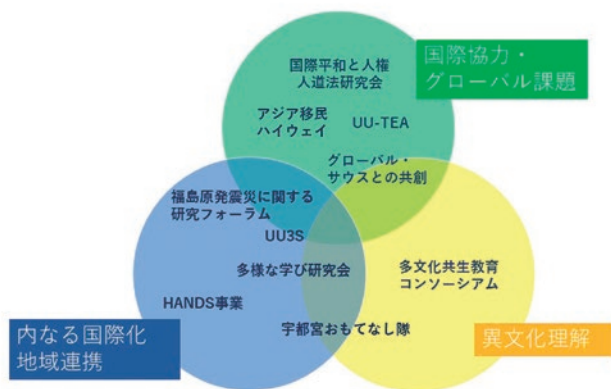
多文化公共圏センターは、よりよい世界を目指し、多様な主体間の議論を学際的につなげ、包摂的な視点から自由な意見が交わされる拠点となることで、宇都宮大学発の公共圏の創成に貢献し、その成果を広く社会に発信する場です。

国際化が進んだ現在の世界で我々が直面している多様な課題に対処するためには、国家の枠をこえた市民一人ひとりのつながりが欠かせません。多文化公共圏センターは、大学と社会との連携を強め、人間に関わる内外両面における複数のシステムを様々な専門分野から多角的に分析し、学際知を基礎に、国際的な視野から取り組みを促進するプラットフォームの役割を担っています。

多文化公共圏センターは、グローバル・グローカルな視点から、様々な課題とその背景に関わる学際知をつなぎ、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」世界を、大学と社会が一体となって創造することを目指しています。

センターのネットワークと多彩な事業

1. 多文化公共圏センターでは、大学・学生・自治体・国際交流団体・市民団体 (NGO/NPO) 等との幅広いネットワークを通して、「国際協力・グローバル課題」、「内なる国際化・地域連携」「異文化理解」の3分野で事業 (Project) を運営しています。
2. 自治体・国際交流団体・市民団体 (NGO/NPO)・教育機関・外国人コミュニティ等からの、相談・協力・共同研究に対応します。
3. 学生・市民団体等 (NGO/NPO) の地球規模の課題解決や国際協力・国際交流等の事業への参加を支援します。
4. 国際協力・貢献、多文化交流に関する理論的実証的研究と教育による人材育成を行います。
5. 年間を通じ、「多文化公共圏フォーラム」を多様なテーマで開催し、自由な意見交換や議論の場 (= 多文化公共圏) を創造します。
6. ホームページや機関紙等を通してProjectの成果等を発信します。



多文化公共圏フォーラム

2023年度多文化公共圏フォーラム実績一覧

自主夜間中学について考える研修会 (全7回)
カーボンニュートラルな栃木県を目指して
「エヴァの震える朝 - 15歳の少女が生き抜いたアウシュビッツ」を読む
東ティモールの平和と外交
ガーナにおける国際協力の現場
SDGs 映画上映会「プラスチックの海」
ASEAN Community Building
なぜ脱原発する必要があるのか (福島原発震災に関する研究フォーラム)
オンライン国際交流チェコ 2023 (全8回)
持続可能な移行に向けた学術的研究とは?
住宅セクターにおけるエネルギー効率改善を支援するガバナンス

2023年12月時点のもの。



センターの事業・プロジェクトのご紹介

HANDS事業

グローバル化する地域で問われる外国人児童生徒教育に関して、県内様々な関係者と協力・連携しながら多面的な観点から応援しています。国際学部の学生も、ボランティアとして様々な場面で外国人児童生徒の支援や国際理解教育に直接かかわっています。

- 支援の場と直接つながる——外国人児童生徒支援のための学生ボランティア派遣 (中国語、英語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、ウルドゥー語、ベトナム語など)
 - 教育体制の充実を図る——外国人児童生徒教育推進協議会の開催 (年2回開催) HANDSメンバーと栃木県教育委員会・県内11市町教育委員会とその小中学校代表が集まり、各地域の現状や課題について情報・意見交換しています。
 - キャリア形成の支援——多言語による高校進学ガイダンスの開催 外国人児童生徒及びその保護者に対して、学校のしくみや高校入試制度について8言語による正確な情報提供を行っています。(学生ボランティアも協力)
- その他、様々な活動を通じて外国人児童生徒の学習や高校進学を応援しています。



福島原発震災に関する研究フォーラム

原発震災はグローバルな問題構造のもとで発生し、今なお社会に甚大な影響を及ぼしています。原発震災の記録を継承することは次世代に向けての責務でもあります。他大学の研究者や行政機関、幅広い市民や被災者の方々と協働しながら、研究調査・学会発表・論文発表・図書刊行、研究会・公開シンポジウム開催を行い、市民社会に広く公表・発信し、問題提起を続けています。



UU3Sプロジェクト (宇都宮大学学生SDGs解決)

深刻な気候危機が迫っています。地域がイノベティブで持続可能な方法で脱炭素社会へ移行するにはどうすれば良いのでしょうか。地域の市民社会・NPOや行政、スウェーデンの大学等と幅広く協働し、再エネ教育、里山保全・緑化活動、SDGs映画会等、多様な実践活動や研究調査を行い、公開セミナーや報告書公表等を通じて、広く公表・発信しています。



国際平和と人権人道法研究会

私達は武力紛争後の社会で平和を築くために必要とされる「知」を政治学や法学を通し学んでいます。参加学生は、国連や国際NGOでインターンを経験し、卒業後には、国内外の大学院進学、大使館や報道機関等で活躍しています。



UU-TEA

日本で一番多く飲まれているセイロンティーの生産地、スリランカの紅茶プランテーション農園コミュニティの青年や子どもたちと本学の学生が交流を続けています。現地の抱える問題について、SNSや報告会を通して発信しています。



宇都宮おもてなし隊

宇都宮おもてなし隊は、新幹線や日光線を利用するインバウンド（外国人観光客）に対して、待ち時間を活用し、日本の文化などを通して、学生による交流とおもてなし活動をしています。



多文化共生教育コンソーシアム ～4大学連携授業

多文化共生の研究教育に取り組む本学と弘前大学、東京外国語大学、長崎大学による事業です。4大学が連携して行っているオンラインによるリレー授業が、国際学部では「多文化公共圏研究演習」に設定されています。



グローバル・サウスとの共創

(在来知・食・健康、日本の国際協力、タンザニア絵本プロジェクト)

グローバル・サウス、とくにアフリカ（タンザニアやガーナなど）におけるSDGsや国際協力に関する活動・研究成果を発信し、文化理解・交流・国際協力に関する活動の場を提供します。2022年度以降、「在来知・食・健康」「日本の国際協力」「タンザニア絵本プロジェクト」の3つの分野における活動をしています。



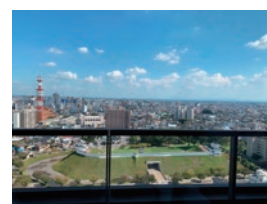
多様な学び研究会

多様な学びの場で生徒を応援する方法や内容を研究し、活動報告を情報発信していきます。具体的には、自主夜間中学について考える連続研修会を開催し、多様な学び相談コーナーも開設して定期的な相談と学習支援を行います。



アジア移民ハイウェイ

アジア各地の移民現象を、受け入れ国・送り出し国に居住する国民・移民ごとにサーベイ調査を行い、比較・分析しています。日本では栃木県で住民基本台帳からサンプルを抽出し、分析を行います。



問い合わせ先（国際学部附属多文化公共圏センター）
TEL:028-649-5196 / FAX:028-649-5228
ホームページ: <https://cmps.utsunomiya-u.ac.jp>

英語圏文化論・イギリス文化論



出羽 尚 いずは たかし

イギリスの文化、とくに美術がわたしの研究対象です。専門的な言い方では美術史学と呼ばれる分野で、美術史学が対象とするのは絵画、彫刻、工芸を中心に、建築、ファッション、写真など多岐にわたります。

あまり触れることのなかった学問かも知れませんが、案外皆さんの身近にも関わっています。例えば、旅行。イギリスと言えば、大英博物館（＝美術館）、セント・ポール大聖堂（＝教会・寺院）、ストーンヘンジ（＝遺跡）などの名が挙がるでしょう。イギリスに限らず、美術館、教会・寺院、遺跡はたいてい人気の観光地になりますが、いずれも美術史学が研究対象とするものです。旅行はまさに美術史学の勉強、と言っても過言ではありません。

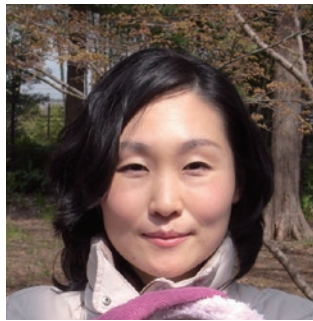
逆もまた真。美術史学の基本は歩くこと、見ること。旅と同じです。そこが大きな魅力です。

担当授業科目

イギリス文化論 イギリス文化論演習
Cultures of the English-Speaking World

izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp

文学 表象文化論



大野 斉子 おおの ときこ

フランスとの比較の視点からロシアの文化と文学を研究しています。

もともとフランス語の勉強をしていた私はドストエフスキイの1冊の本と出会ってロシア文学に引きこまれました。それから文学、メディア、宮廷文化、香水など様々なものに関心を持って研究してきました。思えば私が次に次々と新しい世界を開いてくれたのは本や人との出会いでした。

皆さんが今の日本で触れることのできるロシア文化はたくさんあります。文学作品やバレエ、絵画、音楽などロシアが発信する優れた文化は、もとをたどればヨーロッパの文化とロシアに古くからあった文化との出会いから生まれたものなのです。

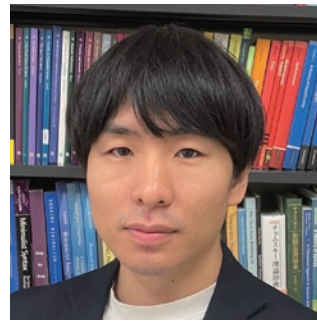
出会いは何かを生み出す原動力になります。大学は様々な分野の授業があり、留学もできる開かれた場です。何を勉強するのも自由なのです！大学で、あなたに世界を開くなにかをたくさん見つけてください。

担当授業科目

芸術文化論 表象文化論

tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp

言語学 第二言語習得



木村 崇是 きむら たかゆき

私たちは皆、ある言語の母語話者であり、多くの場合、他言語の第二言語学習者でもあります。私の研究では、生成文法理論に基づき、母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識（主に形態・統語や意味）の解明を通して、人間が共通にもつ普遍的かつ遺伝的な言語能力を解明することを目標としています。

一般的に、私たちは子どもの頃に母語の文法について明示的に教わることはありませんが、教わってもしない複雑で抽象的な言語知識を自然と身につけています。また、第二言語についても、母語とも目標言語とも異なり、学校で教わってもしないような独自の知識体系を学習者は作り出します。このような不思議な現象は、生成文法などの言語理論で大枠は説明可能であることはわかっていますが、未解明・未解決の問題が山積しています。言語の話者・学習者として、自分達の頭の中で一体何が起きているのか、是非一緒に考え、謎を解き明かしていきましょう。

担当授業科目

言語学 言語学演習
Learning a Different World through English

tkmr32@cc.utsunomiya-u.ac.jp

国際協力



栗原 俊輔 くりはら しゅんすけ

国際協力の分野は、広く、深く、そして分かりにくい。私たちのまわりには、食糧や工業製品を始め、途上国で生産されているものがあふれ、経済やITを中心に世界はますますグローバル化が進んでいる。しかし、先進国と途上国の格差や、途上国での低賃金や機会の不平等など、社会的側面を見逃すことはできない。私たちの豊かな生活のために誰かにしわ寄せが行っているのではないか。世界はますます深く複雑につながり国際協力のあり方も問われている。先進国から途上国への支援という一方的なつながりではなく、どのような場面でもどのように世界とつながっているのか、また、果たして正しくつながっているのかを分析し、問題解決への道筋を探ることを通し、これからの国際社会そして日本のあり方を考えていきたい。

担当授業科目

国際協力論 国際協力論演習
国際キャリア教育関連科目 海外フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ

shunsuke@cc.utsunomiya-u.ac.jp

村落社会学 知識社会学



古村 学 こむら まなぶ

「田舎」や「僻地」と呼ばれるような村落社会、とくに日本の離島や中山間地域をフィールドとして勉強させてもらっています。自然保護などのグローバルな現象を地域に住む人々はどうにとらえているのか、そして、それはどうしてなのか。住込み調査などの手法で、そこの生活を理解することによって、人々の日常生活の視点から見たグローバルな現象の意味について考えています。

地域社会は過去にはどのような社会であったのか、なぜ、どのように変化していったのか、現在の状況はどうなっているのか。これらのことを現地に生活する人々の視点から学んでいくこと、とくにフィールドの場で、みずから学ぶことを重視しています。そのことによって、グローバルな価値観を単純に受け入れるのではなく、地域ごとに異なるローカルな価値観から批判的に考えていきたいと思っています。

担当授業科目

社会調査法入門 地域社会学 地域社会学実習

komura@cc.utsunomiya-u.ac.jp

アフリカ地域研究 社会開発論



阪本 公美子 さかもと くみこ

人間にとって発展、よい生活とは何でしょうか？ 近代化論や従来の経済学では、人類が欲を満たし、富を蓄積することによる経済成長が他者や他地域に波及し、社会開発も伴うと信じられてきました。しかし国際・国内格差はむしろ拡大しているだけではなく、経済成長した地域でも多くの社会・環境問題が山積しています。現在、世界は経済成長のみならず、持続的開発目標（SDGs）に取り組んでいます。多様な経済・社会・文化を理解し、発展のあり方を見直す必要も出てきています。

授業では、アフリカにおける勤務・研究経験を活かしながら、地域規模の問題群を私たちの生活とつながりのあるものとして認識しつつ、理論やアフリカ地域について学び、世界の経済・社会状況を理解する目を養っていきます。

担当授業科目

アフリカ論 途上国経済発展論 アフリカ論演習 東アフリカの社会開発と文化

ksaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

国際関係論 国際機構論



清水 奈名子 しみず ななこ

国際関係を研究する学問が確立したのは、「戦争の世紀」と言われた20世紀になってのことです。その課題は常に、「戦争と平和」の問題に向き合うことでした。なぜ国々は武力を用いて争い合うのか、どうすれば異なる地域や文化に属する人々が共に生きていくことができるのかを考える作業が、その中心となります。

現代世界を見渡してみても、武力紛争や大量破壊兵器の拡散、テロ、内戦での集団殺害など、多くの問題が存在しています。国際関係を学ぶということは、これらの問題はなぜ起きるのか、またどうすれば解決できるのかを粘り強く考え続けることです。授業では、世界の諸問題に対処している国連などの国際機構の働きを学びながら、私たちが生きている世界に何が起きているのかを一緒に考えていきたいと思っています。

担当授業科目

国際関係論 国際機構論 国際関係論演習

nshimizu@cc.utsunomiya-u.ac.jp

社会学、移民・エスニック・研究



申 恵媛 シン ヒエウオン

社会学を軸に、日本におけるエスニック空間の研究に取り組んでいます。特に、多国籍・多文化化する地域でどのような社会関係が編み込まれていくのかに関心を寄せています。

「エスニック」と聞いたとき、どのようなイメージをもつでしょうか？最近では身近になった「エスニック料理」や「エスニック・タウン」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。その「エスニック料理」を提供する人々はどこからどのように来日し（あるいはせず）、どのような経緯でその地域に拠点を構え、ビジネスに従事するようになったのでしょうか。また、そうしたお店や施設が集積し「エスニック・タウン」が形成されていったことは、近隣に住む・働く・学ぶ・集まる人々とのような関係にあるのでしょうか。そして、これらの状況はどのような文脈のもとで生じているのでしょうか。このように、身近な出来事を深く広く掘り下げ、より学術的に読み解く面白さを、ぜひ満喫してください。

担当授業科目

国際社会論 人の国際移動
人の国際移動演習

hshin@cc.utsunomiya-u.ac.jp

ラテンアメリカ論



Ana Sueyoshi スエヨシ アナ

ラテンアメリカと聞くと、日本から非常に遠いところにあり、全体的に同じような国々があるという印象を日本人は持っていると思います。しかし私はこのような画一的な見方を乗り越えられるように授業をする予定です。

アメリカが発見されてから、アメリカ先住民の古代文明は西洋世界と接触し、現在知られているような新しく特徴的な地域が作られてきました。ラテンアメリカとカリブ海諸国はしばしば同質的だと考えられています。なぜなら、これらの国々は言語、宗教、歴史などにおいて共通の面を持っているからです。しかし実際には、原住民とスペイン、ポルトガルからの征服者が出会い、またアフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの影響で文化が混ざり合い、ラテンアメリカ諸国は社会的、経済的、政治的なユニークさを持つようになりました。このような同質さの中の異質さは、ラテンアメリカの最も魅力的で面白いところです。

日本とラテンアメリカおよびカリブ海沿岸諸国との経済・文化面での交流が最近増えてきたため、ラテンアメリカとの距離は近くなってきています。その距離をもっと狭めることができるようにラテンアメリカの社会、文化、経済、政治、歴史を学生に紹介して刺激を受けてもらい、将来の研究や仕事の参考にしてもらいたいと思っています。

担当授業科目

Introduction to Latin American Studies
Latin American Politics and Society
Seminar in Latin American Studies

sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp

東南アジア政治研究



Sugit Arjon スギット アルジヨン

国際関係の分野では、グローバル ガバナンスと市民社会という2つの主な行政機関を扱うことがよくあります。

グローバル・ガバナンスはまた、二国間および多国間協定、明らかな矛盾、不安定なダイナミクス、および未解決の問題に満ちた研究です。したがって、この概念は、世界の経済、政治、文化、安全保障などの特定の問題から切り離すことはできません。

個々の側面がグローバル ガバナンスの最近の発展を後押ししており、ローカルおよびグローバルに発生しているセキュリティと経済の動向によって、定期的に集会的に引き離されています。重要な問題は、世界的なガバナンスがより大きな協力または対立に向かっていくかどうか、および国家や他の関係者がその方向にどのように影響するかです。

さらに、過去20年間、私たちは社会運動の台頭とその出現方法に注目してきました。この運動は、安全保障、国家のイデオロギー、政策、文化、アイデンティティに影響を与えます。

社会運動は、市民的不服従、抗議、フレーミングなどの特定の戦略を検討することによって変化をもたらします。

担当授業科目

Global Civil Society
Seminar in Global Governance
Theory of Global Governance

sugit@cc.utsunomiya-u.ac.jp

国際環境協力



高橋 若菜 たかはし わかな

せまりくる気候危機、海洋プラスチック汚染、森林破壊、種の絶滅に、放射能汚染。21世紀に入り、環境問題はますます深刻化しています。問題の解決には何が必要なのでしょう？科学技術、資金？それとも法律、あるいは人々の意識でしょうか？

これら全てを方向づけるのが、政治です。徹底した情報公開、報道の自由度の高さ、地方分権、開かれた政策形成プロセスと、様々な次元での市民参加・ジェンダー平等などは、総じて、多様性を重んじる人に優しい環境取組を可能にしています。

授業では、スウェーデンをはじめとする国内外での学際的共同研究や、国や自治体の審議会、NGOなどの実務経験を活かして、座学だけでなくフィールドスタディを通じ、カーボンニュートラルな循環型社会へ向けての持続可能な移行のためのガバナンスを探ります。

担当授業科目

SDGs入門 環境と国際協力 地球環境政策論
環境と国際協力演習 多文化公共圏実践演習（グローバル）
ジェンダー論（他8名）

wakana@cc.utsunomiya-u.ac.jp

日本語学 日本語史



高山 道代 たかやま みちよ

「ことば」は人々の使用の中で、また、他言語との接触をとおして変容しつつ存在する存在といえます。世界の言語は一般的に三千種ほどにわかれるといわれています。そのなかで日本語はどのような点で普遍性また独自性をもつのかについて、文法的視座にたった分析を通してとらえていきたいと考えています。また、その際には現代語を対象とする場合でもその背景となる歴史的変容を視野に入れながら、体系的にとらえたいと考えています。

授業では、日本語に関する多様な問題を空間軸、時間軸上の様々な観点からとりあげます。現代語をはじめ、古代語や地域語などの多様な日本語を実際の用例の中で具体的に考え分析することによりを入れます。

担当授業科目

日本語論 日本語史 日本語論演習

mtakayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp

多文化共生教育



立花 有希 たちばな ゆき

比較教育学が専門で、主にドイツの異文化間教育について研究しています。文化、言語の異なる子どもが在籍しているとき、学校にはどのような対応が求められるのでしょうか。また、多文化化、多言語化する社会のなかで、学校教育はどのように変化するべきでしょうか。そうした問いに答えるためには、歴史や国際比較に学ぶ必要があります。

授業では、多文化社会における教育を考える上で重要な理論と実践について、国内外のさまざまな文献や事例を参照し、これからの多文化社会について議論していきます。

担当授業科目

多文化共生教育 多文化共生教育演習
外国語特別演習（ドイツ語）

tachibana@cc.utsunomiya-u.ac.jp

教育社会学 外国語教育



戚 傑 チー ジエ

ポスト構造主義・ポスト植民地主義の視点から学校教育・言語教育に関する研究・分析を行っています。現在関心を持って取り組んでいるのは日米中における大学入試制度と学力観・人間形成観の相違に関する研究です。具体的には、社会や教育がどのようにして人間を形成し、一旦形成された価値基準が社会や教育にどのように影響を及ぼすかについて論理と実証の両面から検証を試みています。これに加えて、グローバルゼッションと多文化教育の在り方に関する研究も行っています。従来、多文化論は、異なる文化背景を持っている人間同士が「交流・理解できること」を前提に展開されましたが、紛争の絶えない世界の現実を見る限り、他者を理解したつもりでミスコミュニケーションは他者を理解する障害にさえなるとも言えます。そこで、この「理解可能な他者」を前提とするよりも、理解できない「文化的な満」を分析することにより多文化教育の在り方を探求していきます。なお、授業では、学生の理論的思考力と創造性を引き出すことに重点を置き、異なる文化をもつ人々とコミュニケーションをとる際に必要な能力と態度を養うことを目指しています。

担当授業科目

移民と多文化教育 移民と多文化教育演習
グローバル化と外国人児童生徒教育（他6名）
Japanese Communication Arts（基盤教育科目）

jqi@cc.utsunomiya-u.ac.jp

比較文学 比較文化 日本文学 韓国文学



丁 貴連 チョン キリョン

ヨーロッパ文学の影響を強く受けた日本の近代文学が、韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学に及ぼした影響関係について研究しています。対象となる作家及び作品は、明治期日本の文学的現実にあつて、社会を嚮導してきたワーズワースやモーパッサン、ツルゲーネフなどのヨーロッパ文学と、その影響を強く受けた日本文学、そして日本文学に影響された韓国文学です。つまり、日欧韓の三者間を巡る近代文学の成立過程を研究しています。このような比較文学研究は、西洋文学の一方的な受信者と知られる日本近代文学が、実は韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学に大きな影響を及ぼしていたというもう一つの顔を浮き彫りにすることができます。日中韓、日欧韓といった比較の視点から東アジアの近代化の過程を考えるのが目下の関心です。

担当授業科目

ジェンダー論（他8人）
韓国文化論 韓国文化論演習
比較文学 韓国文学（基盤教育科目）

jeong@cc.utsunomiya-u.ac.jp

感情心理学 社会心理学



中村 真 なかむら まこと

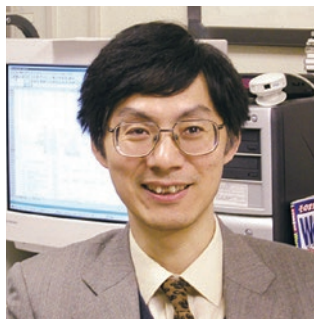
感情とコミュニケーションの心理学について研究しています。特に表情に表れる感情とその判断に興味があります。表情を通じた感情のコミュニケーションは、人間のあらゆるコミュニケーションの基礎になるものです。いくつかの感情を表す表情は、生まれながらといてもよいほど発達のごく初期から人間に備わっています。新生児は泣いたり、笑ったりすることで周囲の人間に情報を伝え、適切な働きかけを促します。また、子供は発達のプロセスを通じて、自分の表情、感情表現を適切にコントロールするための規則を学んでいます。このような規則には文化などの集団による違いもあり、その違いを知らないために様々な誤解が生まれる可能性もあります。最近では、感情と排斥行動の問題についての研究も進めています。

担当授業科目

異文化間コミュニケーション
対人コミュニケーション論
対人コミュニケーション論実験

nakamura@cc.utsunomiya-u.ac.jp

情報科学



倪 永茂 にい よんも

今日の情報化社会において、インターネットは人々の生活の基盤やコミュニケーションの基盤となりつつあり、広く利用されています。Webページのリンク情報を集めた巨大なデータベースに、世界の何十億もの人々がアクセスし、日常的に情報検索・情報発信・情報収集を行なっています。また、スマートフォンを肌身離さずSNSを利用している人が大勢います。コロナ禍でも、インターネットと情報機器が有効に活用され、遠隔教育やテレワーク（リモートワーク）が可能になったのです。

国際社会の相互理解の新しい手段として情報ネットワークシステムを捉え、その利用の可能性と課題を情報科学等の学際的視点から探求しながら、情報化社会に貢献することを目標に、教育研究を行っています。

担当授業科目

情報と倫理
情報ネットワーク概論
情報ネットワーク実習

niy@cc.utsunomiya-u.ac.jp

国際法 国際人権 刑事法 平和構築論



藤井 広重 ふじい ひろしげ

紛争後の国家再建における司法の役割を中心に、アフリカ地域での事例研究に取り組んでいます。初めてアフリカを訪問したのはボランティアとして、その後も仕事や調査のため数回に滞在しました。そして、その度に「私」とは異なる様々な違いに気付かれます。しかし、これは「アフリカ」と「私」に限ったことではありません。この世界に、また日本国内にも、違いを持つたくさんの人々が生活しています。この違いは、私達の生活を豊かにしてくれますが、時に深刻な事態をもたらすこともあります。私たちは「違い」がもたらす不正義に対し、如何に向き合うべきでしょうか。アンリ・デュナンやキング牧師は、不正義を克服し、より良い社会を目指して活動しました。私は、彼らの活動を支えたのは、人々からの支持だけではなく、彼らの「意志」だと思っています。そして、私が専門とする分野の学びは、理想とする社会を議論することで自らの「意志」を育む機会でもあると考えます。南アフリカのネルソン・マンデラは、政治犯として27年間投獄されながらも、後に大統領となりアパルトヘイトを廃止します。そんな彼が、次のような言葉を残しています。「One of the most difficult things is not to change society - but to change yourself.」より良い社会に向かうための鍵は、私達自身が握っているのです。

担当授業科目

国際法演習、International Protection of Human Rights
International Humanitarian Law in Theory and Practice

fujiih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

フランス文学、ヨーロッパ思想史



榎野 佳奈子 まきの かなこ

私が研究対象としているのは、19世紀のフランス文学・思想・文化になります。留学先で提出した博士論文では、1839年にパリで公式発表された写真技術が当時のフランスにおいてどのような存在として受け入れられ、人々はその芸術性についてどのように捉えることになったのかを、同時代の科学普及活動家ルイ・フィギエ(1819-1894)という人物の解解を中心に分析しました。最近では、このフィギエという人物が「科学」と「非科学」の境界をいかに捉えていたのか、という観点から新たに研究を進めています。

皆さんも大学で、これまで自分の知らなかった言語を努力して学んだり、これまで手に取ったことのないような文献を読み込んだりすることで、自分の中で何かが変わっていくような感覚が味わえると思います。自ら考え、自分の言葉で語ることの面白さ、そして他人の言葉にも耳を傾けて違いを尊重し合う楽しさを、大事にできればと思っています。

担当授業科目

フランス文化論 フランス語講読
フランス文化論演習

kmakino@cc.utsunomiya-u.ac.jp

比較日本文化論・身体文化



松井 貴子 まつい たかこ

日本って何でしょう？

自分が生まれ育った日本を客観的に眺め、理解するために、私には他者の視点が必要でした。日本文学を経て比較文学比較文化に出会い、現代につながる近代日本を研究の対象に選びました。

日本の近代化は急速な西洋摂取によって進められました。その結果、近代日本は、前時代から隔絶したかに見えながらも、そこには、日本が東アジアから摂取した伝統文化が確かに底流しています。変動する時代のなかで、文学も、文学以外の様々な文化や歴史、社会の動きと連関しながら、日々新たに創造され、生きてきました。

西洋受容に関わる伝統の継承と断絶という視点から、日本の近代化の特質や本質を明らかにすることを目指しています。

そして、現代の日本に現前する多文化環境から、文化間の異質性と同質性を見出して、文化が融合し、解離する様相について、その意味を考え続けています。

担当授業科目

日本文化論 日本文化論演習 身体文化
多文化公共圏実践演習（グローバル/グローバル）

mtaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

地域研究（中東）



松尾 昌樹 まつお まさき

中東地域の政治経済現象について研究しています。中東地域は石油と紛争、イスラームや非民主主義的な政治体制でよく知られています。それに加えて、中東は世界最大の移民受け入れ地域でもあり、多様な文化的背景を持った人々から構成されています。こうした特徴をもとに、莫大な石油収入を国民に配分することで非民主的な統治制度を維持する政治経済システム（レントリア国家）や、大量の移民を受け入れることが民主主義の定着を阻害する統治制度（エスノクラシー）について研究しています。

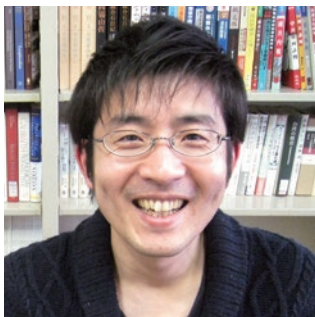
石油と移民、（非）民主主義の統治といったテーマは、21世紀のグローバル世界を考える上で非常に重要で、こうした特徴が顕著な中東地域の研究から得られた知見は、しばしば中東以外の地域の研究にも役立てられています。このため、中東以外の多様な地域を研究する学問であるエリアスタディーズも担当しています。また、さまざまな地域での現地調査に加えて、統計資料やサーベイ調査から得られた多様なデータをコンピューターが作り出したモデルに投入して分析する計量分析にも取り組んでいます。皆さんも、多様な地域を一緒に研究しませんか？

担当授業科目

データサイエンスとエリアスタディーズ 中東地域研究
中東地域研究演習

matsuom@cc.utsunomiya-u.ac.jp

東アジア国際政治



松村 史紀 まつむら ふみのり

国際政治の舞台では好戦的で権力闘争に長く、悪意をもった勢力ばかりが危機を引き起こすとは限らない。正義や平和をかかげた人間が期待を裏切り、悪行と悲劇に終わることもしばしばある。

国際政治の歴史を学ぶことは、悲劇を引き起こした犯人をさがし、論難することではなく、そのような恐怖のもとにおかれた人間を深く理解することにほかならない。いまを生きる人間は現代の価値観に基づき、事態の結末を知っているという優位な立場から過去の愚行を咄い、厳しく裁くことに慣れている。それを「歴史の教訓」と自負すれば、恐怖にかられた人間と対話する機会には生まれないだろうし、みずから現代の特権を享受しているという自覚さえめばえない。切迫した状況のなか、限られた情報と資源しか与えられない人間にどのような選択が許されたのか。この難題を考えることが過去の人間と対話するわずかな手がかりとなるだろうし、未来へのささやかな道標にもなるだろう。

担当授業科目

国際政治論 近現代中国論 国際政治論演習

f-matsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp

産業社会学 地域社会学



Malee Kaewmanotham マリー ケオマノータム

1980年代の半ば以降、日本にはアジアからの労働者が大量に流入しています。この背景には日本とアジアの大きな経済格差があり、アジア系外国人の多くは「不法」就労者として人権を保障されないままに日本社会の底辺で暮らすことになりました。私は日本とアジアの人々がお互いの違いを尊重しながら対等な関係を築くことが重要であると考え、外国人労働者の実態調査に取り組んでいます。また、母国であるタイでは、首都バンコクの地域調査を行っています。タイは日系企業の進出などにより業が進み、バンコクと農村の地域格差が拡大しています。そして農村では貧困、バンコクでは人口集中による都市問題が発生しています。農村出身者の多くはバンコクでスラムを形成し、劣悪な居住環境での生活を強いられています。そうした恵まれない条件におかれた人々が自分たちの生活を守り、改善していくために結成するのが地域住民組織です。私は、この実態調査をとおり、住民の権利と自治を保障する望ましい社会開発のあり方を考えています。

担当授業科目

東南アジア論 タイ都市社会論
東南アジア論演習 外国語特別演習（タイ語）
外国語臨地演習（タイ語）

malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp

英語音声学 音響音声学



湯澤 伸夫 ゆざわ のぶお

英語の音声を分節音とプロソディの観点から科学的に研究する英語音声学が専門です。研究には音声を正確に聞き取ること、発音記号を正確に読めること、音声を正確に発音記号で書くことも重要な技能になります。単に本を読んで理解しただけでは済まされません。英語の音声の研究にはコンピュータによる分析は欠かせません。工学研究者の研究成果により今後ますます優れたソフトウェアが作られ、より精度の高い研究ができることを期待しています。

研究対象としている英語の音声は、基本的にBBC accent (RP) とGAです。この他に、世界で使用されている様々な英語の音声もできる限り研究対象としたいと思っています。日本人英語学習者が守らなければならない英語の音声の特徴の計量的な研究を進めたいと思いますし、将来的には学際的な研究を通して自動音声翻訳機の開発やTTSプログラムの改良にも挑戦したいと思っています。

担当授業科目

Phonetics and Phonology
Presentation and Discussion

yuzawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp

一般言語学
教育学

吉田 一彦 よしだ かずひこ

言語とコミュニケーションの本質は何か？ということを追及しています。相互理解と誤解の両方のメカニズムに関心を持ち、個々の言語現象を、類似の現象や他の言語と比較・対照し相対化してみる作業を大事なことだと考えています。日本語・フランス語・英語・タイ語・モンゴル語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語など、複数の言語をみずから学び、多言語コミュニケーションの実践をとおして研究課題を見つけ、記述的にも理論的にも現象の解明と取り組んでいます。

自分自身留学生として非常に有意義な日々を過ごしました。今でも昨日のことのように思い出します。また、機会に恵まれ、30以上の国を訪ね、おそらく100を超える国籍の人々と共同作業をしてきました。国籍や思想や歴史観、文化・社会背景が違ふ人間が共同作業し、互いをリスペクトし、自分が何者であるかを忘れるぐらい熱心に学び合える、そんな機会を大学での教育・研究活動をおして実現したいと考えています。そして、これから世界に出て行く人のサポートとも取り組んでいます。

担当授業科目

多言語コミュニケーション学A/B（基盤教育）
Linguistic Typology and Language Communication
日本語教育と国際協力演習

yds@cc.utsunomiya-u.ac.jp

アメリカ文学
アメリカ文化研究

米山 正文 よねやま まさふみ

私の研究対象は19世紀のアメリカ合衆国の文学です。他の国でもそうかもしれませんが、合衆国の場合とりわけ文学が国造りと関わってきました。18世紀末にイギリスから独立し新しい国家ができたとき、作家たちは地域・民族・階級で分裂していた人々に、新しい国の特徴や価値観を意識的に描いていきました。私の研究対象は、こうした作家たちの詩や小説のみならず、パンフレット、新聞記事、演説など文字にされたもの全般になります。ナショナル・アイデンティティーを構築しようという共通性とともに、こうした作家たちの中の多様性にも注目したいと思っています。それによって合衆国の形成されていく複雑な過程を追うのが私の目的です。

担当授業科目

アメリカ文化論 アメリカ文学史
アメリカ文化論演習

yone@cc.utsunomiya-u.ac.jp

文化人類学



Lee Perez Fabio リーペレス ファビオ

文化人類学は人の生き方を文化の側面から理解していく学問です。私は、ライフストーリーの交換という研究法で、この問題にアプローチしています。ライフストーリーは、その人が、生まれてから今日までの間に起きた出来事、生き方、物事に対する考え方や感じたことについての語りから、文化について考えます。私は、ライフストーリーを聞かせてもらうという行為には、「君のこと教えてよ」「じゃ、君のことも聞かせてよ」というように、相手にも自分のライフストーリーを聞かせるという相互関係があると思います。お互いのライフストーリーの交換を通して異文化の相互理解ができるんじゃないかと考えています。

私は、両親の国籍が異なり、幼い頃から複数の国家、言語、文化を跨いで生きる人々「ストレンジジャー」の生き方を調査しています。「外国につながりを持つ人」、「ハーフ」や「移動する子ども」と称される人々の調査もしています。最近では、文化的背景が異なる人々が互いの持つ差異と向き合い、いかに友人関係を築いているのかを明らかにすることを目的とした研究に着手しています。

ちなみに、趣味はサイクリングと怪獣フィギュア収集と映画鑑賞と料理です。

担当授業科目

文化人類学 民族誌学 スペイン語購読

lee.perez.fabio@cc.utsunomiya-u.ac.jp

国際協力
コミュニティ
防災



飯塚 明子 いいづか あきこ

防災は災害が多発する日本だけでなく、世界的に大きな課題です。私はこれまで日本、ベトナム、スリランカ、イラン、アフガニスタン等といった国内外の被災地で、大学の研究員、防災専門国際NGOの職員、国連職員という様々な立場から災害復興支援に従事してきました。その過程で、コミュニティを核とした防災（災害発生前の備え、災害発生後の緊急、復旧、復興期の対策）の必要性を強く感じ、現在の研究に至っています。

コミュニティ防災は、社会学、地域研究学、心理学、工学、政治学、国際協力学、文化人類学等の幅広い専門領域を網羅する学際的なテーマです。国内外の被災地の多様なリアリティーを捉え、多面的に理解し、包括的な提案ができるよう、一緒に学んでいきたいと思っています。

また大学（米国）と大学院（オランダ）で留学を経験し、インドでNGOインターン、ベトナムとスリランカでは防災国際協力に関連する仕事で駐在したことがあります。授業や専門分野に関わらず、留学や国際交流に興味のある方はぜひご相談下さいね。

担当授業科目

グローバル入門（基盤） Risk Management
国際インターンシップ Disaster Studies演習

iizuka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学国際学叢書

第1巻

冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護

多主体間主義による規範的秩序の模索



清水奈名子（単著） 260頁
日本経済評論社／2011年2月

武力紛争下の文民（戦闘員以外の民間人）の保護が、なぜ冷戦後の国連安全保障理事会において注目されるようになったのか。平和維持活動に文民保護の任務が取り入れられた経緯に着目しながら、その背後にある多様な主体の協働に焦点を当て、冷戦終焉後20年の間に積み上げられてきた議論を読み解く。

第5巻

越境するペルー人

外国人労働者、日本で成長した若者、「帰国」した子どもたち



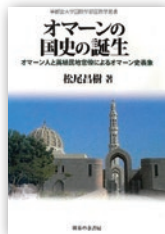
田巻松雄 スエヨシ・アナ（編） 229頁
下野新聞社／2015年3月

南米諸国のうち、日本といちばん最初に国交を樹立した国ペルー。日本に出自を持つ日系人が日本以外の国で初めて大統領に選出された国ペルー。1990年前後の出稼ぎブームの中で、ペルー人が来日し始めてから20数年が経った現在、約5万人のペルー人が日本に暮らしているが、ペルー人に関する先行研究は極めて限られている。本書は、ペルーにルーツがある人々のうち、外国人労働者として日本で暮らしてきた人々、日本で成長し大人になった若者、「帰国」した子どもに焦点を当て、丹念なインタビューとアンケートにより「越境するペルー人」のリアルな姿を描き出す。

第2巻

オマーンの国史の誕生

オマーン人と英植民地官僚によるオマーン史表象



松尾昌樹（単著） 206頁
御茶ノ水書房／2013年2月

英植民地官僚による歴史の纂奪と、オマーン亡命政府による自己表象。オマーン史の産出と伝達、そして隠蔽と忘却の痕跡を、多様なテキストから読み解く。

第6巻

第二言語によるパラフレーズと日本語教育

鎌田美千子（単著） 152頁
ココ出版／2015年2月



本書では、日本語でレポートや論文を書く留学生への教育方法を議論していく上で欠かせないパラフレーズ（言い換え）に関する5つの実証研究をもとに第二言語による困難点を解明した。語句レベルを中心とした従来の教育方法に対して、文章レベルでの包括的な視点が必要であることを論じた。ココ出版「日本語教育学の新潮流」シリーズの一冊。

第3巻

平安期日本語の主体表現と客体表現



高山道代（単著） 200頁
ひつじ書房／2014年2月

本書は平安期日本語動詞述語文の主要な格である主語表示および対象語表示の形態についての記述的研究の成果であり、この時代の日本語における名詞句の格システムの一部を明らかにしたものである。さらに、名詞句の文法的諸側面について類型学的な観点もとりいれ分析を加えることによって、平安期日本語の主体表現と客体表現の特徴を明らかにし、古代日本語研究への提言をおこなう。

第7巻

離島エコツーリズムの社会学

隠岐・西表・小笠原・南大東の日常生活から



古村 学（単著） 296頁
吉田書店／2015年3月

エコツーリズムは、自然保護、観光開発、住民参加などグローバルな「正しさ」を備えている。このグローバルな「正しさ」を、ローカルな場である離島、そこに生きる人びとの日常生活から、批判的に読み直す。地域づくり、観光開発といった皮相な見方を排して、離島社会の実像をえがく。

第4巻

地域のグローバル化にどのように向き合うか

— 外国人児童生徒教育問題を中心に —



田巻松雄 著、HANDS プロジェクト 協力／208頁
下野新聞社／2014年3月

定住化する外国人児童生徒は「下層」として固定化されていくのか、日本の将来を背負う「グローバル人材」に成長していくのか。本書は、「多文化共生と外国人労働者問題」、「外国人児童生徒教育問題の諸相」、「HANDS プロジェクトの実践」の3部から構成される。外国人児童生徒教育問題についての地域の実態調査結果報告および実践記録である。

第8巻

原発避難と創発的支援

活かされた中越の災害対応経験



高橋若菜 監修、田口卓臣、松井克浩 214頁
本の泉社／2016年3月

十数万人もの避難者を生みだした福島原発事故。この未曾有の事態にいち早く対応し、次々に有効な支援を打ち出した地方自治体があった。かつて、中越・中越沖の震災を経験した新潟県である。行政・中間支援組織をあげて、原発避難者の声なき声に耳を傾けた新潟県の全面的なサポート体制は、「支援とは何か」、「危機に立ち向かう知恵とは何か」を私たちに問いかけてくる。「ビッグブッダハンド」、「底辺ガバナンス」、「エンパワーメント」一過去の災害対応経験から編み出された豊かな経験知の現場に迫る、『お母さんを支えつづけた一原発避難と新潟の地域社会—』に続くシリーズ第2弾。

第9巻

共生のための言語教育と多文化教育

日中同形語の語義転用からみる日中間の発想の相違点と類似点



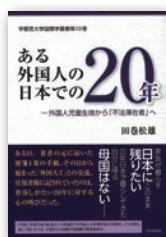
威傑（単著） 80頁
白帝社／2016年3月

日本語と中国語の同形語について、その本来の意味からの転用の違いを研究することで、その背景となるそれぞれの国の政治、文化、社会が見えてくる。本書は、日中同形語の語義転換に関する分析結果を踏まえて言語教育・多文化教育のあり方を考察する。

第10巻

ある外国人の日本での20年

—外国人児童生徒から「不法滞在者」へ—



田巻松雄（単著） 206頁
下野新聞社／2019年11月

ある日、著者の元に届いた便せん一葉の手紙。それは入管施設に収容されている外国人Tからの手紙だった。その日から始まったTとの交流。往復書簡に記されていたのは、形容しがたい20年に対する心の叫びだった。10歳で来日したTは、楽しそうに小学校生活を送っていたという。そんなTが中学校で不登校になり、非行・犯罪に走ったのはなぜか。非行・犯罪の事実がTの人生をどこまで縛って良いものなのか。Tの姿を通して、「外国人児童生徒の転落」と「入管施設での外国人の長期収容」の実態を問いかけた。

第12巻

From Foreign Child to Illegal Immigrant

The Case of T, a Brazilian Man of Japanese Descent Who Lived in Japan for 20 Years



田巻松雄（単著） 160頁
下野新聞社／2021年8月

T is a Brazilian of Japanese descent who came to Japan in 1998 at the age of 10 years. He stopped attending school shortly after entering junior high school, and thereafter, he was involved in a repeated pattern of delinquency and crime. While in prison, he lost his status of residence as a long-term resident and became an illegal overstayer. After spending about three years in an MOJ (the Ministry of Justice) Immigration Control Bureau detention center, he was deported to his home country of Brazil in November 2019. This book focuses on T as an individual to closely examine his twenty years in Japan.

第13巻

奪われたくらし

—原発被害の検証と共感共苦（コンパッション）—



高橋若菜編著、清水奈名子、阪本公美子他 315頁
日本経済評論社／2022年3月

揺らぐ被ばく防護基準、住めないふるさと、避難さえも「自己責任」とされる現実。福島原発事故による避難の苦悩や避難先での生活の困難を、新潟県の調査を中心に明らかにする。

第11巻

激動するグローバル市民社会

「慈善」から「公正」への発展と展開



重田康博（単著） 320頁
明石書店／2017年3月

本書は、急激にグローバル化する21世紀の国際社会の中で、グローバル市民社会の発展の理論と実際を検証し、NGOをグローバル市民社会が、戦争被災者や難民への人道支援活動としての「慈善」からその活動を質的に変化させ、貧困・援助・貿易・債務・格差など南北問題やグローバルな構造的な問題の根本的な背景や原因を分析し、問題の解決に向けての活動を多様化し、専門化し「公正」を求める活動へと発展し、展開した過程を検証している。

第14巻

外国人生徒の学びの場

—多様な学び場に注目して—



佐々木一隆・田巻松雄 編 208頁
下野新聞社／2023年3月

本書は、外国人生徒の学びの場について、多様な学び場があることに目を向けた様々な人たちが共同執筆したものである。三部構成で、I部（夜間中学、定時制課程、特別定員枠校）は日本と海外の学校に、II部（学校以外の学びの場）は自主夜間中学、移民団体、外国人学校、外国人教育相談窓口、III部（排斥、排除、壁）は様々な排斥行動、学びからの排除、日本語習得の壁に焦点を当てて論じている。全11章の論考に加え、コラム、座談会もあり、随所に組織的な共同研究の成果が見られる。

国際学部新書

世界を見るための38講

宇都宮大学国際学部 編
下野新聞社／2014年11月



2014年10月で20周年を迎えた宇都宮大学国際学部。国立大学唯一の国際学部が、「地域からのグローバル化」と「地域のグローバル化」に対応するために掲げてきた理念とは何か？ その理念を支える二つの柱（「国際」と「学際」）は、どのような意味を持つのか？—国際関係（一章）、アジア（二章）、文化（三章）、多言語（四章）、足元の地域（五章）、遠方の地域（六章）、学問の方法（七章）。本書では、この7つの切り口から、「栃木というローカルな地域において、グローバルかつ普遍的な視点に立つ」宇都宮大学国際学部ならではの視野の深みと広がりが見えます。

多文化共生をどう捉えるか

宇都宮大学国際学部 編
下野新聞社／2018年10月



宇都宮大学国際学部は、学科統合（国際学科1学科）を機に、教育目標を「多文化共生に関する体系的な学び」に置いた。本書は、新しい国際学部を発信するために、すべての教員が専門分野に引き付けて多文化共生を語ったエッセー集である。ティシプリン（学問分野）横断型で「多文化共生を学際的・国際的に考える」本書は、日本から旅立ち日本に戻ってくる構成となっている。どのようなグローバルな問題であれ、まずは、今自分が立っているこの地点から現実を見て、考えていかなければならないからである。「外」もみて「内」もみる複眼的な視野が必要だ。多文化共生をめぐるグローバルな旅へ！！

キャンパス カレンダー

Utsunomiya University Campus Calendar

四季折々のイベントシーン。
きっと、一生忘れられない4年間になるはず。



4
April

入学式
オリエンテーション
新入生交流会

5
May

International Communication Seminar

6
June

卒業生による就職セミナーⅠ

7
July

前期試験
夏季オープンキャンパス

8
August

外国語臨地演習
夏季休業

9
September

夏季休業
国際キャリア教育
キャリアフェスティバル



10
October

秋季オープンキャンパス
International Career Seminar

11
November

卒業生による就職セミナーⅡ
大学祭（峰ヶ丘祭）

12
December

1
January

冬季休業
卒業論文提出

2
February

後期試験
春季休業
外国語臨地演習

3
March

春季休業
学位記授与式
卒業記念パーティー
外国語臨地演習



留学情報

協定校紹介

宇都宮大学は、海外の**43**の大学と**大学間交流協定**(★)を結んでいます。また、国際学部は、**14**の大学と**学部間交流協定**(★)を結んでいます。このうち42大学との間で学生交流に関する協定を結び、短期留学推進制度によって、交流協定校へ本学学生を留学生として送り出すとともに協定校からの留学生を受け入れています。



イギリス (連合王国)

- ★セントラル・ランカシャー大学*³
UNIVERSITY OF CENTRAL LANCASHIRE



アイルランド共和国

- ★アイルランド国立大学ダブリン校
UNIVERSITY COLLEGE DUBLIN



フィンランド共和国

- ★東フィンランド大学*⁴
UNIVERSITY OF JOENSUU



フランス共和国

- ★オルレアン大学
THE UNIVERSITY OF ORLEANS



チェコ共和国

- ★パラツキー大学
PALACKY UNIVERSITY IN OLOMOUC



ドイツ連邦共和国

- ★エアランゲン・ニュールンベルク・フリーストリッヒ・アレクサンダー大学
FRIEDRICH-ALEXANDER UNIVERSITY
ERLANGEN-NUREMBERG

- ★トリア大学
UNIVERSITY OF TRIER



ベルギー王国

- ★ブリュッセル自由大学*³
Vrije Universiteit Brussel



シリア・アラブ共和国

- ★ダマスカス大学*²
DAMASCUS UNIVERSITY



ガーナ共和国

- ★ガーナ大学
UNIVERSITY OF GHANA



ケニア共和国

- ★ジョモ・ケニヤッタ農工大学
Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology



エチオピア連邦民主共和国

- ★アディスアベバ大学
ADDIS ABABA UNIVERSITY



タンザニア連合共和国

- ★ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学*⁴
THE NELSON MANDELA AFRICAN INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

- ★ダルエスサラーム大学
UNIVERSITY OF DAR ES SAALAM



ロシア連邦

- ★イルクーツク国立大学*²
IRKUTSK STATE UNIVERSITY



アメリカ合衆国

- ★トライン大学
TRINE UNIVERSITY
★ヴィンセンス大学
VINCENNES UNIVERSITY
★ノースダコタ大学*²
UNIVERSITY OF NORTH DAKOTA
★パデュー大学*¹
PURDUE UNIVERSITY



カナダ

- ★ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学
UNIVERSITY OF NORTHERN BRITISH COLUMBIA



メキシコ合衆国

- ★コリマ大学*²
UNIVERSITY OF COLIMA



キューバ共和国

- ★ハバナ大学*¹
UNIVERSITY OF HABANA



ペルー共和国

- ★ボンティフィシア・カトリック大学
PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DEL PERU



マレーシア

- ★サラワク大学
UNIVERSITY MALAYSIA SARAWAK



ベトナム社会主義共和国

- ★ハノイ大学
HANOI UNIVERSITY
★ダナン科学技術大学
THE UNIVERSITY OF DANANG-UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY



カンボジア王国

- ★王立プノンペン大学
ROYAL UNIVERSITY OF PHNOM PENH



モンゴル国

- ★モンゴル人文大学
UNIVERSITY OF THE HUMANITIES
★モンゴル生命科技大学
MONGOLIAN STATE UNIVERSITY OF AGRICULTURE



大韓民国

- ★祥明大学校
SANGMYUNG UNIVERSITY
★全北大学校
CHONBUK NATIONAL UNIVERSITY
★蓮庵大学
YONAM COLLEGE
★慶北大学校
KYUNGPOOK NATIONAL UNIVERSITY
★釜慶大学校
PUKYONG NATIONAL UNIVERSITY



中華人民共和国

- ★復旦大学*²
FUDAN UNIVERSITY
★電子科技大學
UNIVERSITY OF ELECTRONIC SCIENCE AND TECHNOLOGY
★内蒙古農業大学
INNER MONGOLIA AGRICULTURAL UNIVERSITY
★浙江大学*³
ZHEJIANG UNIVERSITY
★浙江師範大学
ZHEJIANG NORMAL UNIVERSITY
★浙江工業大学
ZHEJIANG UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
★寧波大学
NINGBO UNIVERSITY
★チチハル大学
QIQIHAR UNIVERSITY
★華南農業大学
SOUTH CHINA AGRICULTURAL UNIVERSITY
★香港大学
UNIVERSITY OF HONG KONG



インドネシア共和国

- ★ボゴール農科大学
BOGOR AGRICULTURAL UNIVERSITY
★ガジャマダ大学
GADJAH MADA UNIVERSITY
★パジャジャラン大学
UNIVERSITAS PADJADJARAN



タイ王国

- ★カセサート大学
KASETSART UNIVERSITY
★タマサート大学
THAMMASAT UNIVERSITY
★アジア工科大学*⁴
ASIAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY



バングラデシュ人民共和国

- ★ダッカ大学
UNIVERSITY OF DHAKA



スリランカ民主社会主義共和国

- ★ペラデニヤ大学
UNIVERSITY OF PERADENIYA



台湾

- ★国立台湾師範大学
NATIONAL TAIWAN NORMAL UNIVERSITY
★国立政治大学
NATIONAL CHENG CHI UNIVERSITY
★国立中興大学
NATIONAL CHUNG HSING UNIVERSITY
★国立暨南国際大学
NATIONAL CHI NAN UNIVERSITY
★国立台北大学
NATIONAL TAIPEI UNIVERSITY

* 1 学術交流協定のみの締結校のため、学生の派遣は行っていない。 * 2 学生の派遣は、現在行っていない。

* 3 学生交流のみ行っています。 * 4 学生交流は大学院生のみ行っています。

留学体験談

Student Voices

自分で見ることの大切さ

山下 風紗

✦ オルレアン大学

France
フランス



今は簡単にネットで情報が得られる時代です。しかし、実際に行ってみないと分からないことがたくさんありました。ネットに書かれた情報や人から聞いた話は、その人の観点でしかなく、自分の目で見ることの大切さを感じました。フランス人はバカンスを楽しみに働いていたり、集合時間通りには来なかったりなど文化の違いがたくさんあり、フランスの文化を通して自国の文化や言語について改めて考えるととても良い機会になりました。その中で、ここは日本の方が好きだな、逆にここはフランスの方が好きだなと感じることがありました。また、街を歩いていると知らない人にニーハオと言われていたり、日本人や韓国人がみんな同じ顔に見えると言われていたりなど、ヨーロッパやその他の地域からアジアがどのように見えているのかも知ることができました。約1年の留学が、結果的に半年の留学になってしまい心残りもありますが、貴重な経験ができたことをうれしく思います。

ぜひ、学生のうちにできることにたくさん挑戦してみてほしいと思います。

留学というひとつの選択肢

高田 伊知郎

✦ エアランゲン・ニュールンベルク・フリーストリッヒ・アレクサンダー大学

Germany
ドイツ



高等学校の英語教員になることを目指す中で、専門性のある知識を磨き、それを伝える技術を高めたいと考え留学を決意しました。言語習得に加えて、専攻している環境政策の学びを両立できる環境としてドイツを留学先に決めました。

留学の魅力は、その街に住んで学ぶことができることだと思います。ドイツの大学生と一緒に食堂でご飯を食べる、地元の人たちと同じスーパーで買い物をする。そんな当たり前の生活から、ドイツ人の人柄やドイツ文化の背景を知りました。エアランゲン大学には世界中から留学生が来ています。留学先でしか出会えない多様な仲間たちと日常的に関わり、学問に真摯に向き合う姿に刺激をもらいながら学ぶことができました。

この冊子をご覧になっている方は、国際学部で学ぶことの楽しさや留学への憧れを抱いていることと思います。留学は選択肢のひとつです。自分の理想や目指すものを叶える方法を、色々な角度から検討してみてください。

不安でも大丈夫!!

千葉 大雅

✦ イルクーツク国立大学

Russia
ロシア



大学に入る前から留学に行きたいと考えており、選考に応募したことがきっかけでロシアのイルクーツク国立大学に留学しました。宇都宮大学と協定校だったのですが、ロシアの事情により一時中断されていて、今年からまた派遣が再開されました。そのため去年留学に行った先輩などいなかったため、とても不安な気持ちで留学を迎えました。

その心配は1ヶ月もすればどこかへ行ってしまおうかのごとく生活に慣れることができました。というのも、周りの人が外国人に対してとても優しく、困っていた時にはよく助けて頂きロシアに対する恐怖心というものは一気に無くなったためでした。

授業は毎日2コマずつ行われていて、レベル別に外国人向けの授業が開講されているため、自分のレベルに合ったペースで学ぶことができます。授業後には留学生はフリーな時間が多く、自主学習や趣味といった自分の時間を確保できます。そのため、自分でどう過ごすかが重要でした。私は自主学習のほかに、ロシア人の友達と関わろうとしました。大学には日本語学科があり、日本人の先生もいるため、ロシア人と関わる機会があったのは私にとってありがたいことでした。大学外でも日本の市と姉妹都市関係にある街が近くあり、その記念式典にも参加させていただけることもありました。

このようにロシアの方々と関わる機会がたくさんあり、イルクーツクは語学を伸ばすにはとても良い環境です。もちろん言葉が伝わらない、言いたいことが言えないことで落ち込むことがありましたが、それを次に生かすことで徐々にコミュニケーションが取れるようになってくるので大丈夫です。皆さんも留学を考える際にロシアを検討してみてはいかがでしょうか？

チェコってどこ?

佐藤 美波

✦ パラツキー大学

Czech
チェコ



交換留学に行く話を家族や友人にすると、必ず聞かれたのは「チェコってそもそもどこにあるの?」という質問です。

私がそんな日本人にあまり馴染みのない国を選んだのは、第一に「学部留学」ができることが理由です。一口に交換留学といっても、提携大学の語学学校へ行くものと、学部に行くものの二つに分かれます。私は英語「の」勉強ではなく、英語「で」勉強したかったので学部留学ができるパラツキー大学を志望しました。

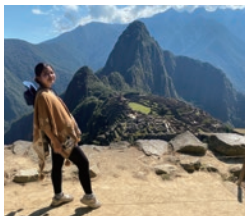
世界中からやって来た留学生と寮で共同生活をし、彼らと授業に参加する生活はとても刺激になりました。時に言語面でつまずくこともありましたが、日本人の少ない留学先ということもあり、積極的に英語で様々な人と関わることで克服しました。留学中に会った友人たちとは、今でもチャットや電話、プレゼントを贈り合うなどしています。

チェコは地理的にヨーロッパの国々へアクセスがとても良いので、留学中に様々な国を訪れました。それでも私は声を大にして「チェコが一番好き」と言えます。なぜか気になる人はぜひ行ってみてください!

自分で切り拓く留学体験

銘苅 実祐

✦ ポンティフィシア・カトリック大学

Peru
ペルー

私はペルーでの留学生活を通して、自分の世界を広げることの大切さを学びました。

到着してからの約2週間は言語の壁に打ちのめされ心から楽しめる心境ではありませんでしたが、母語ではない言語の中で生活するので当然です。私が大切にしていたのは腹を括って勉強することと、下手でもコミュニケーションを諦めないことでした。そうすると3カ月も経つ頃には周りに驚かれるほど話せるようになりました。

言語の壁を越えた先には多くの学びと充実した留学生活が待っています。私の留学先の大学は毎年約200人も留学生を受け入れており、国際色豊かな大学です。私のシェアハウス仲間もドイツ、フランス、メキシコなどの様々な国から来ており、彼らとの文化トークは家での楽しみの一つでした。現地学生とも積極的に交流していたおかげで誕生日パーティーに呼んでもらったり、地元に行って町を案内してもらったりと興味深い体験もしました。

私が思う交換留学最大の利点は、このように自分の努力次第で留学生や現地の人々などと沢山交流し、行動範囲も知識も広がっていくことです。これから留学へ行く皆さんも、ぜひ自分の可能性を信じて積極的に自分の世界を広げていってください。

知らない世界へ飛び込もう

和田 彩那

✦ カセサート大学

Thailand
タイ

宇都宮大学では学べないことが学びたいと思ったことと、東南アジアに興味があったので、カセサート大学のマーケティング学科に留学しました。大学では、世界各地から来た留学生やタイ人の学生と一緒に授業を受け、休日には友達とご飯や旅行に行ったり、大学の部活に参加して体を動かしていました。また、授業がない日は現地の会社でインターンシップを行ってありました。タイには駐在や現地の会社などで働いている日本人が多くいます。将来海外で働きたいと思っている人には、海外で働く日本人と交流したり、実際に働く経験をする事で、海外で働くイメージを明確にできると思います。

チャンスはやってくるものではなく、自らとりにいくものであると思います。留学に興味を持っているなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。そして、留学先でも、面白そうと思ったことや自分の成長につながりそうと思ったことはぜひ行動に移してみてください。

かけがえのない経験

伊藤 諒香

✦ ヴィンセンス大学

United States of America
アメリカ

漠然と留学したいという気持ちを持ちながら大学に入学し、アメリカへの留学を決めました。留学の準備期間はとても不安で、想像ができないアメリカ生活にそろそろ不安していました。しかし、いざ行ってみるととても充実した大学生活を送ることができました。渡航後の数ヶ月は慣れないことが多く苦労しましたが、慣れていくと忙しい毎日を楽しむことができました。コミュニケーションすべてが英語でなされる環境のため以前はどうしても気になっていた文法を気にせず、伝えるということ意識して英語を話すようになりました。時には間違いを指摘してもらい周りの人に助けられながら英語力の向上ができたと感じています。

「留学」という勉強をしに行くというイメージが強いかもしれませんが、それ以上に外国で生活すること自体がとても貴重な経験になったと実感しています。観光では行かないであろう公共交通機関のない田舎町で、時にはホームステイという形でアメリカの文化・生活を体験できたことが貴重な財産になったと感じています。

壁を乗り越えた先には

永島 良恵

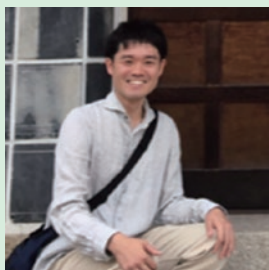
✦ 浙江大学

China
中国

中国留学にて私は2つの壁にぶつかりました。1つ目は自ら積極的に行動をしなければ有意義な留学生活を送ることができないことです。自ら動かないと何も得ることができないと思いました。積極的であればあるほど現地の興味深い場所や人に出会うことができます。また留学の楽しさに気づくことができるでしょう。2つ目は「日本」を知らない戸惑う場面に遭遇することです。現地の学生や留学生と触れ合う際に日本の歴史や文化、政治について尋ねられる場面が多くありました。しかし上手に答えることができず、何度か悔しい思いをしました。これら2つは全ての留学生活において共通することなのではないでしょうか。留学の良さは数え切れないほど存在すると思います。しかしそれは人から聞くものではなく自分で体験するものだとは私は思います。是非留学してみてください。

国際学部 学生紹介

学生紹介



西 航太郎

国際学部での学生生活

私はもともと他の学部に入學しましたが、大学での勉強を続けている中で欧米の文化に興味を持ち、転部試験を受けて3年次の春から国際学部で学び始めました。私は文化が専門ですが、文化を理解するためにはその背景にある社会や時代背景、思想などを学ぶ必要があります。このように物事を色々な角度から分析することの大切さを国際学部で学びました。私は、夏休みを利用してロンドンに短期で語学留学に行きました。非常に短い期間でしたが、海外に1人で行くのは初めてで最初は不安でした。それでもとても充実した留学にできてヨーロッパの文化に興味が増したので、研究をさらに頑張っていきたいです。

国際学部では、文化や社会などを多様な面から学ぶことができ、研究の対象となる地域も多岐にわたります。また、国際学部は留学生や日本人の学生で留学に行く人もたくさんおり、非常に国際色が豊かな学部です。また、様々なことを研究している学生がおり、ボランティア活動やサークル活動などの課外活動にも積極的に取り組んでいる学生が多くとても活気のある学部です。卒業後の進路も海外で働く人もいれば、国内の企業に就職する人、公務員になる人など多種多様であり、それぞれが自分の夢に向かって大学で学んでおり、とても刺激を受けています。この多様性が国際学部の大きな強みであると日々感じています。



DOAN NGUYEN KHOI

新たな環境に順応する能力

私は外国語学習と言語学に興味を持ち、宇都宮大学の国際学部を選びましたが、2年間ほど大学生活を過ごした今、新しい環境に順応する能力が何よりも身に付いたと思っています。

宇都宮大学に入學したのはちょうどコロナ・ウイルス感染が猛威を振るい始めたころだったので、入学式もなく、先輩たちのように登校することもできなくなりました。講義は全てインターネットで行われ、担当教員や友達などとの連絡も難しく、基本的に一人で自立して生活することになりました。1年次は留学生の私にとって不安でいっぱいでした。

しかし、最も暗いところにも光は付いた。ソーシャル・ディスタンスやロックダウンの措置がとられる日が続きましたが、国際学部の教員や留学生・国際交流センターの紹介で、私はユニークな体験をしました。1年次の終盤、10日間ほど慶北大学校（韓国）の主催したオンライン留学プログラムに参加できたのです。また、その直後にはマレーシア・サラワク州にある観光会社の海外インターンシップの初オンラインプログラムにも参加できました。このような課外活動を通して、自分の外国語能力は着実に高まり、その場でしか会えない人々にも出会えました。多文化共生的な環境に身を置き、活躍できたと思います。

この2年間を振り返ると、宇都宮大学のおかげで、さまざまな貴重な経験ができ、入学時の自分よりもずっと成長できたと思います。どれほどの困難がやってきても、それに立ち向かえば、順応できるということを国際学部で学びました。

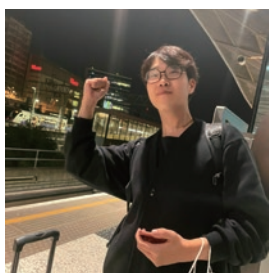


高橋 この葉

逆境も学びに繋げて

入学当時はコロナ禍で、授業がオンラインとなり、大学に行く機会がほとんどありませんでした。家で一人勉強をする中で、大学在学中に海外に行くビジョンが掴めず、目指していた留学を諦めるなど、挫折がありました。それでもこの4年間で何かを得たと思います。SDGs映画上映会というオンラインイベントの運営チームとして活動を始めました。それをきっかけに所属した環境政治学ゼミでは、学生主体での活動が多く、自由な発想で様々なことに挑戦できる機会がありました。イベントで司会進行を務めたり、ワークショップでファシリテーターを担当したりといった経験は、自分自身の成長に繋がったと思います。また、行政向けに提言を行う中では、「学生ならではの」視点を求める声もあり、今だからこそ声を上げる必要があることを感じました。卒論では自治体新電力をテーマとして、宇都宮市の事例を取り上げ、国際学部ならではのグローバルな視点を持って分析を行うことが出来たと思っています。

私は高校以前まで環境分野に深く関心を持ってきたわけではありませんでしたが、大学で学ぶうちに関心が強まり、生涯を通して学び続けたいと思うようになりました。今は何を学びたいと思っているか悩んでいる人にも、分野を問わず学際的に学べる国際学部で、関心のある分野を探ることが出来るのではないかと思います。どんな状況になっても、挑戦する場所がある学部だと思っています。国際学部で学ぶことで、チャンスを掴んで、学びに繋げて欲しいと思います。



香野 大地

実践的な学びを経験できる場

皆さんは「人権」という言葉を聞いて、どのような印象を抱くでしょうか？私は国際学部に入學した当初、いざ「人権」という言葉について考えてみたとき、その具体的なイメージを掴むことが難しかった記憶があります。そんな私が人権分野に関心を抱いたきっかけは、大学の授業で学んだ知識を生かして取り組む、「子どもの国際人権ワークショップ」に参加したときでした。「子どもの国際人権ワークショップ」は主に高校生を対象に、国際学部附属文化公共圏センター国際平和と人権人道法研究会が実施しています。

私は1年の後期から、子どもの国際人権ワークショップに携わっています。ワークショップの内容は、架空のシナリオを用いて、紛争下にある子どもたちの権利がどのように侵害されているのか、参加者である高校生たちに人権活動家の立場になって考えてもらい、どのような改善が必要であるか、その支援を決定する役の大学生に支援の必要性和意義を説明するというものです。私も参加者としてワークショップを体験した際には、先輩方が「子どもの権利」について教えてくださり、紛争下の子どもたちが直面する人権侵害を想像することで、具体的に「人権」という言葉を説明できるようになりました。

知識が身につく、さらにワークショップそのものも楽しく、今では学生代表として運営に関わっています。強く印象に残った出来事として、高校生から「人権が身近なものなのだ」と実感でき、また国際学部の学びに興味を抱いた」という感想が寄せられました。ワークショップを通じて、「人権」のイメージを掴んでいただき、その一翼を担えたことへの喜びは大きかったです。国際学部に関心を持っている皆さんの中には、ニュースや新聞などで国際情勢を知る際に、理解が難しい話題もあります。こうした実践的な学びを通じて、これまで難しいと感じていた話題に興味を持つ機会を提供してくれる国際学部は非常に魅力的だと思います。



鈴木 ひとみ

突き詰めることの面白さ

私の専門は国際法です。中でも紛争下で人道的危険に晒されている人々の命や権利を守る国際人道法について4年間学んできました。戦争にもルールがあり、紛争当事者はそれらを守る義務があります。しかし、世界には未だ、目を覆いたくなるような悲惨な状況が存在します。私は机上の学びだけではなく、赤十字国際委員会主催の国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会に出場し、実際の紛争状況を模倣したシミュレーションに挑み、法的議論や被害者への聞き取り調査などを行いました。大会への参加を通じ、学んできた知識を実務に生かすことの難しさを痛感しましたが、チームとして一緒に参加した仲間や支えてくださった指導教員と大学で出会えたことは一生の財産です。また、国際学部での学びと経験が実を結び、記者職の夢も叶えることができました。将来は紛争現場での取材を通じ、助けを求めたくても求められない人々の声になれるような番組を作ることが目標です。国際学部には社会・文化を問わず、様々な領域の学問を学ぶことができる環境も整っていますが、自分の専門を4年間突き詰めることができることも魅力だと思います。

HAGIYA CORREDO
MAGDA

夢への一歩、国連でのインターン

私は高校生の頃から社会貢献をしたく、国際機関で働きたいという夢を抱いていました。そのため、国際学部入学後に、さまざまな分野を学び、少しずつ批判的思考や論点を構築するスキルを磨きました。中でも、国際人道法と国際人権法が武力紛争や時事問題の理解に非常に重要な役割を果たしていることに関心を持ち、国際法の研究室に入りました。そして、オランダでのゼミ合宿では国際機関を訪問し専門家から話をうかがったり、国際人道法の国際大会に出場する機会を得ました。

何よりも、指導教員の勧めで応募した国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にてインターンシップを経験することができたことは嬉しかったです。UNHCRは国際的な難民保護および人道支援活動を行うために設立された国連機関であり、私がインターンを経験した駐日事務所では日本国内での難民関連の活動やプログラムの実施、政府や非政府組織、企業、市民社会等との連携を通じて、難民問題への理解を深める活動を行っています。私は広報室に所属し、国際法の知識を生かしSNSでの投稿を考えたり、イベントやユース向けの活動に参加したりしました。また、UNHCRの活動に携わる中で、研究室の仲間と培ったチームワークのスキルが、国際的な環境で働く際にも重要であることを実感しました。

これらの経験を通じて、私の遠い夢であった国際機関での勤務が少し近づいた気がしています。将来的には紛争地域での人権保護や人道支援に貢献することを目指しています。国際的な大会にチャレンジし、仲間と共にハードルを乗り越える経験ができ、国連でのインターンに繋がった大学4年間の経験はこれからも私の財産です。国際学部に入學して本当に良かったと思っています。



カネシロリンダ

みんなの国際学部

高校卒業後、3年間社会人を経たから国際学部に入學しました。最初は不安ばかりで、しかもコロナ禍で1年間オンライン授業でした。画面越しで友達を作ることは難しくて、一人で課題に取り組むことが多かったです。2年生になって初めての対面授業では、画面でしか見たことがなかった学生と対面して、授業の楽しさを思い出し、嬉しくてたまりませんでした。3年間「勉強したい」という気持ちが強くて、国際学部の様々な分野をすべて吸収し、将来のためにできるだけ多くの知識、技術、経験を身に付けたいと思います。国際学部には多様な教員や学生がいる中で、私は自分の居場所を見つけることができました。このパンフレットを読んでいるあなたも、不安でいっぱいかもしれないけど、国際学部では絶対に自分の居場所を見つけられるはずです。ぜひ、今度はキャンパスでお目にかかりましょう。



菊地 桃香

自分の世界が広がる場所

自分が何をしたいかが分からない、または、様々な分野に興味があり選べない、という人も皆さんの中にはいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな人たちにこそ、国際学部はピッタリだと思います。国際学部で学べることは多岐にわたり、好きなものを好きなように選択できます。学問の食べ放題のような感じです（笑）。一緒に学ぶ友達との、それぞれが持つ興味のある分野や、日本各地の地元の話から、毎日たくさんの気づきを得ています。また、個人の考え方や意見を尊重しあい、違いを楽しんでいる点も大きな魅力の一つです。国際学部に入ってから、世界は多様性で溢れるカラフルな場所だと気づくことができました。私はここで学ぶことができ幸せです！

学生活動紹介



「おもいやり」で子ども達の未来を

ナムチャイ

私たちは、タイ東北部シーサケート県の農村に暮らす子供たちの教育支援を行う国際協力系サークルです。現地の人々は農業で生計を立てていますが、気候により収入が左右され、時には子どもが学校に行くためのお金を準備することが困難になります。そのため、子どもたちが教育を受けられるように奨学金支援を行っています。

毎年2月に支援先を訪問していましたが、コロナ禍により一時中断することになりました。そこでZOOMを活用し、交流や家庭の調査を図りました。企画したレクリエーションを子どもたちが楽しんでいたり現地の状況を伺ったりなど意義深いものになった一方で、現地に行くことができないもどかしさを強く感じました。

現地に行けない今、私たちは海の向こう側にいる人々のために何ができるのでしょうか。「ナムチャイ」とは、タイ語で「おもいやり」を意味します。彼らの気持ちをおもいやり、これから様々な可能性に取り組んでいければと思います。(丸山 浩平)

インドの女性と子どもの自立支援を目指して

宇都宮大学学生国際協力団体
Resource Network

私たちの活動理念は、「地球上に存在する開発ニーズ（リソース）を結びつける（ネットワークする）ことで国際協力を行う」ことです。お金や品物だけでなく、時間や人の想いも「リソース」の概念に含め、結びつけようとしています。

この理念をもとに、現在はインドの女性の自立支援として、彼女たちが一つ一つ手作りした雑貨を日本の各イベントで販売しています。また、オンライン販売も視野に入れ、準備を進めています。そして、これらで得た利益はインド西武にある寄宿舎へ、子どもたちの生活支援として送るのです。さらに、体験型学習の機会として、インドへのスタディーツアーも積極的に行う予定です。国際協力の在り方について悩むこともありますが、これからも多くの方に活動を知っていただき、協力を得ながら、インドの女性や子どもの自立に貢献していこうと思います。(古谷 菜々香)

私たちはフェアトレードで世界をつなぐ種だ

KAKEHASEEDs

KAKEHASEEDsは「地域でできる国際協力」をモットーに、主に宇都宮で開催されるイベントでフェアトレード商品を販売したり、ワークショップを行ったりして活動しています。フェアトレード商品の販売を通して、生産者であるバングラデシュ、ネパールの女性たちの生活や自立を支援しています。また、フェアトレード商品は、母団体的存在の国際協力NGO「シャブラニール」と連携して販売をしています。国際協力と聞くと、実際に海外に行くことを思い浮かべるかもしれませんが、私たちが行っているフェアトレード商品の販売、そして商品を購入することも国際協力になります。このような「地域でできる国際協力」を広めるために日々活動しています。普段は週に1回のミーティングを行い、イベントやワークショップ、大学行事などについて話し合っています。メンバーの近況報告や相談・雑談タイムなどもあり、和気あいあいとした雰囲気のサークルです。皆さんも「地域でできる国際協力」をしてみませんか？(森内 晴南)



飢餓と飽食がつながるTable

Table For Two宇都宮

みなさんは「TABLE FOR TWO」という仕組みを知っていますか？ TFTは開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む日本発の社会貢献運動です。私たちTFT宇都宮は、この仕組みを宇大の学食・購買に導入したり、地域のイベントに出店させていただいたりして、毎年約3000食の給食をアジア・アフリカの子供たちに届けています。多くの給食を子供たちに届けたいという想いはもちろん、この仕組みのことをより多くの人に知ってもらいたいという想いを持って活動しています。TFT宇都宮というサークルは、「食」という私たちにとって一番身近な行為から、世界とつながることが出来る、世界について、未来について、そして私たち自身について深く考えることができるサークルであると私は思っています。小さなことかもしれませんが、その「小さなこと」で変わる何かは絶対にあると思います。皆さんも私たちと一緒に活動してみませんか？（上遠野 亜衣）



Taking the Law out of the Books in Utsunomiya

宇都宮国際平和と司法研究会(UIPJ)

皆さんは「人権」と聞いて何を思い浮かべますか？ 私自身、UIPJに入るまでは、人権と聞いても堅苦しいものや難しいものである、というイメージを持っていました。しかし、人権とは私たち一人一人が持っている権利であり、すべての人の人権が守られるべきなのです。では、紛争下にいる人々や、自分たちの家や生まれ育った国を離れなければならなかった難民の人々の人権は、守られていると言えるのでしょうか。

UIPJでは、そんな人権を含む国際法や国際平和など、大学の授業だけでは学ぶことができないことを考えるきっかけを与えてくれます。また、学外の国際法を用いた大会への参加や、高校でのワークショップの実施など、学んだ知識を基に様々なことに挑戦できるところもUIPJの魅力の一つです。昨年度8月に開催されたKırımlı Dr. Aziz Bey国際人道法大会では、これまでの学びを活かし、準優勝を頂くことができました。新しい知識を修得することは大変なこともあります。その自分自身の成長につながり、仲間とのかけがえのない時間となります。（新井 廉）

オンラインツールを活用した学生同士の支え合い

国際学部学生ピアサポートグループ

コロナ禍において孤立しがちな学生同士が支え合う活動として、2020年6月に開始された「宇都宮大学学生支援ピアサポーター制度」は、2、3、4年生の有志がピアサポーターとなり、学生同士の交流や情報交換の機会を作っています。1年生を4、5名ずつのグループに分けて、2、3名のピアサポーターが相談に乗る「グループ活動」をはじめ、授業の選び方、大学における勉強の仕方、レポートや期末試験対策、学生生活や留学などについての経験を共有する「自由参加型活動」を、LINEやZoomなどのオンラインツールを活用しながら行っています。活動の成果として、1年生からは交流の機会が得られた、心の負担が軽くなったとの意見が寄せられました。またサポーターの学生からも、悩みを共有しあえた、複数のサポーターで対応できる体制がよかったといった意見が出されています。

（ピアサポートリーダー 阿閉 陽香）



卒業後の 進路

取得可能な 資格等について

○教育職員免許状

教職に必要な科目の単位を取得し、教育実習を行うことによって以下の免許状が取得できます。

中学校教諭一種免許状（英語）

高等学校教諭一種免許状（英語）

○学術英語能力強化プログラム

専門教育において学術面の英語力を強化したい人のために、学術英語能力強化プログラムが開設されています。所定の単位を修得し、所定のGPAとTOEICスコアを取得した人には、学術英語能力強化プログラム修了証書が交付されます。

○初習外国語能力強化プログラム

専門教育において各初習外国語能力の実践的運用能力を強化したい人のために、初習外国語能力強化プログラムが開設されています。所定の単位を修得し、所定のGPAを取得し、所定の検定試験等に合格した人には、初習外国語能力強化プログラム修了証書が交付されます。

○大学院への内部進学

よりよい平和構築への貢献を目指して
ー大学院進学という選択ー

横山 友輝

宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科

社会デザイン科学専攻

グローバル・エリアスタディーズプログラム



私は国際学部を卒業後、宇都宮大学の大学院に進学しました。私が大学院への進学を決意したのは、「紛争の被害に遭う人のためになる仕事がしたい!」と考えたからです。学部4年間の授業や海外での研修を通して平和構築は「気持ち」はもちろん、地域の文化・慣習に関する確かな知識や、法律や理論といったツールを持ち合わせていればより現実に即した実践的な平和構築ができるということに気づかされました。そこで、実務経験を含めて様々なご経験を有する宇都宮大学の先生方の下でより専門的な知識を得るために進学を選択しました。

大学院生は多くの挑戦の機会をいただきます。例えば私は、スイスの国際・開発研究大学院が主催する開発目標推進国際コンテスト（ジュネーブチャレンジ）に、友人と協力して作成した日本における子どもの権利保障に関するレポートを提出しました。機会を活かすも殺すも自分自身であるという程よい緊張感の中で仲間と協力しながら調査を進めました。このように必死に研究に打ち込むことができるのは大学院生ならではの醍醐味だと思います。

また、大学院での2年間を通じて自分自身と向き合い、長期的な目線でのキャリア形成を考えるようになりました。卒業後は、民間企業への就職が決まっています。その後は再び平和構築分野での挑戦を続けたいと思います。

○大学院進学

宇都宮大学大学院、東京大学大学院、東北大学大学院、横浜市立大学大学院、早稲田大学大学院

進学情報

就職情報

国際関係	外務省、国際協力機構(職員、青年海外協力隊)、日本貿易振興機構(JETRO)、国際交流サービス協会(在外日本国大使館など)、在日本タイ王国大使館、外務省在ハンブルク出張駐在官事務所、日本赤十字社、UNHCR協会、国際開発救援財団、難民を助ける会、オング国際特許事務所、東南アジア漁業開発センター など
ジャーナリズム・出版	読売新聞社、毎日新聞社、共同通信社、福島民友新聞社、NHK、富山テレビ放送、幻冬社ルネッサンス新社、秋田魁新報社 など
旅行・観光・ホテル・運輸	日本航空(JAL)、全日本空輸(ANA)、成田国際空港振興協会、JALスカイ、ANAエアポートサービス、ANA沖縄空港、東日本旅客鉄道(JR東日本)、東急リゾートサービス、日本通運、近鉄エクスプレス、佐川急便、アルプス物流、アパホテル、星野リゾート、マイステイズ・ホテル・マネジメント、近畿日本ツーリスト、JTB、JR東日本びゅうツーリズム&セールス など
商社・情報・サービス	三井農林、大塚商会、ソフトバンク、TKC、楽天、日本IBM、マイナビ、ワールド、伊藤忠テクノソリューションズ、ヤナセ、NTTデータマネジメントサービス、日本通信サービス、東京コンピューターサービス、TDCソフト、SMS、JTBコミュニケーションデザイン など
製造・開発	スズキ、日産自動車、キャノンメディカルシステムズ、レオン自動機、矢崎総業、日本たばこ産業、クラシエ製薬、筑波乳業、ブルボン、山崎製パン、東京エレクトロン、アイリスオーヤマ、日本電気 など
金融・保険	足利銀行、栃木銀行、群馬銀行、常陽銀行、筑波銀行、福島銀行、東邦銀行、みちのく銀行、秋田銀行、長野銀行、三井住友信託銀行、日本政策投資銀行、明治安田生命保険 など
卸売・小売	良品計画、ファーストリテイリング、ノジマ、セブンイレブン・ジャパン、三井食品、富士貿易、イオン九州、ニトリ、カンセキ、山田ホールディングス、ウェルシア薬局、神戸物産、日立建機日本、神鋼商事、JFE商事、ヨークベニマル、東京インテリア家具 など
建設	栃木ミサワホーム、日本アクア、栃木セキスイハイム、日本電設工業、ヤザワコーポレーション、エステート住宅産業、旭化成ホームズ など
教員・教育関連	教員(栃木、茨城、秋田、大阪、熊本)、トライグループ(家庭教師のトライ)、創英コーポレーション、NOVAホールディングス、東京日本語研究所、さくら国際日本語学院、東京早稲田外国語学校、日本教育フリエイト、開倫塾日本語学校、埼玉YMCA、浦和国際教育センター、宇都宮大学、作新学院高等学校、自治医科大学、岩手医科大学 など
公務員	厚生労働省、農林水産省、海上自衛隊、国税庁、東京税関、原子力規制庁、県庁(栃木、茨城、岩手、福島)、市役所(宇都宮、小山、足利、さいたま、上尾、つくば、古河、小千谷、沼津、三沢、旭川)、警視庁、県警(栃木、埼玉) など
その他	太田総合病院、埼玉県済生会川口総合病院、ハッピーライフケア、ベネッセスタイルケア、ふくしま連携復興センター、JR東日本東北総合サービス、パーソナルテンプスタッフ、マイナビ など

就職情報



羽根田 彩李

日ノ丸自動車株式会社

大学卒業後、地元・鳥取県の日ノ丸自動車株式会社に就職しました。ANAと総代理店契約を結んでいる会社であるため、私は現在鳥取空港のグランドスタッフとして働いています。地方の小さな空港ではありますが、地域の方々に密着した安心安全な空の旅のお手伝いをしています。

大学で学んだ事を地元で活かせられたらという思いからこの仕事を選びましたが、実際に国際学部での学びが生きていると感じることが多々あります。日本語が分からず不安そうなお客さんと外国語で手続きをし、最後に笑顔が見えた時に私も嬉しくなったことがあります。お手伝いが必要なお客様が何を希望されているのか、色々な可能性を考えて行動したことで、感謝の言葉をいただいたこともあります。国際学部で様々な人、価値観、文化に触れたこと、交換留学を通して言語の習得はもちろん、外国人としての生活を体験をし幅広い視点を得たことは、現在の仕事をする上でとても大切なことだったと感じています。国際学部だからこそ経験できることがたくさんあります。積極的に取り組み、ぜひ自分の可能性を広げて下さい。

Messages for you

各界の第一線で活躍する、宇大の卒業生をご紹介します！

中野 零士

天鷹酒造株式会社

私は現在栃木県の酒蔵で商品の出荷作業を担当しています。大学で日本と世界の関わりについて学ぶ中で、世界に向けて日本の良さを発信できる伝統文化の一つである「日本酒」に興味を持ち志望しました。

大学時代は太平洋戦争を中心とした日本の近現代史に関心があり、授業以外にもそれに関係する政治、歴史、文化などさまざまな分野の書籍に触れました。また、アルバイトで貯金をしてハワイや沖縄、広島等重要な史跡を訪れて見聞を深めました。こうした経験を通じて、一つの物事を様々な視点から捉えることができるようになったと思います。

宇都宮大学には全国、世界の各地から様々な学生が集まります。このような多様性の溢れる空間に身を置くことは、皆さんの学びが深まっていくのを後押ししてくれるのではないのでしょうか。四年間の大学生活は長いようであっという間に過ぎてしまいます。皆さんがこの限られた時間を自らの意思で実りあるものにしていけることを応援しています。





青葉 美尋

株式会社サン・フレア

私は現在、翻訳会社である株式会社サン・フレアで営業職として働いています。言語に関わる仕事をしたいという思いで就職活動を行い、今の会社にご縁があり入社しました。翻訳会社という文字の翻訳や文学作品の翻訳というイメージをもつ方が多いかと思いますが、私が働いている会社ではビジネスに関わる産業翻訳のサービスを提供しています。その中で私は特定の業界のお客様を担当しているのではなく、グローバルに関わる様々な業界の方をお客様としており、日々営業活動を行っています。

学生時代は勉強のほか、交換留学やサークル活動など多くのことを経験し、多様な価値観やグローバルな視野での考え方が身につきました。今では様々な業界のお客様とお話しする際にそれらがとても重要なことだと感じています。

学びの機会や人との出会いを大切にいただき、充実した大学生活を送ることで将来の夢が見つかり、やりたい自分が見つかると思います。



大島 有沙

(株)ブルボン

私は現在、お菓子会社の営業として勤務しています。得意先との商談を通じて商品を店頭に並べることが私の仕事です。提案を自分の手で、売場で実現できることがやりがいにつながっています。

仕事では、社会全体や市場の変化にアンテナを張り、迅速な対応が求められます。また業務では得意先の方など、立場の異なる方と交渉をする機会が多くあります。利害が異なる時は難しさも感じますが、何か役に立てることはないか、相手の言葉に耳を傾けるよう心掛けています。様々な課題に当事者意識をもって、疑問、問題意識を持ち続けること、そして異なる立場の相手を理解し、尊重しようとする姿勢は大学時代の学びや留学経験から得たものです。

国際学部では幅広い分野での学びと、挑戦できる環境が用意されています。先生方、友人との出会いもかけがいのないものになるはずです。ぜひやってみたいことに貪欲に取り組んでみてください。



宇内 紳悟

株式会社東邦銀行

私は大学卒業後2回の転職を経て、現在、地元である福島県の東邦銀行で国際営業課にて勤務しています。人口減少により国内市場が縮小していく中で、海外ビジネスを検討している企業の海外展開サポートを行っています。また、これまでの仕事もJICAのプロジェクトに携わるものやメーカーでの海外営業など、海外との関わりを軸に選んできました。

海外や英語への興味から私は国際学部に入學しました。充実した英語教育や留学制度、専門科目での学びを通じてどこでも武器となる英語力や国際的な視野を養うことができました。そして、今までのどの仕事をした時でも大学生活で養った広い視野があったからこそ相手の立場に立って考え、英語で相手に物事を伝えることが出来たのだと思います。

大学では是非たくさん学び、遊び、様々な経験をしてみてください。今は将来、何になりたいか、何になれるのかが分からないとしても、国際学部での学生生活には様々なところにそのヒントが隠れているはずです。



小林 安美香

厚生労働省 福島労働局 いわき公共職業安定所

私は現在、国家公務員として厚生労働省福島労働局ハローワークいわきの雇用保険適用課で働いています。仕事内容は主に、窓口での申請書の受理、雇用保険に関する相談等を行っています。大学生のうちはあまり関わりがない雇用保険ですが、社会人として働き出すとほとんどの人が加入することになる制度です。そのため、事業主の方や個人の方など様々な人々が窓口を訪れます。

そんな業務を行っていく中で、国際学部で身につけた力が役に立っていると感じます。私は大学時代に1年間の交換留学で韓国の大学に行き、様々な国の人々と関わることを通じて、相手の立場に立って考える力が身につきました。また、留学中には韓国語の習得のために、積極的に現地の学生と関わることでコミュニケーション能力が身についたと感じます。現在の窓口業務において、今まで培った力を元々窓口を訪れた人に寄り添った対応を心掛けています。

国際学部は、なんでも学べて何にでもなれる学部だと思います。みなさんが自分のやりたいことを見つけ、楽しく実りのある大学生活を送れることを願っています。



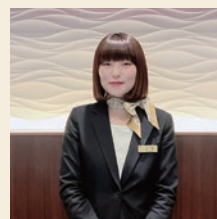
藤田 実央

一般財団法人成田国際空港振興協会

私は現在、一般財団法人成田国際空港振興協会で、成田空港のインフォメーションスタッフとして働いています。初めて成田空港を利用したのは、大学2年生で韓国の釜山へ交換留学をしたときでした。私にとって初めての海外だったため、とても不安だったことを覚えています。

今はその成田空港でインフォメーションスタッフとして、当時の私と同じように海外に行く人や、日本にきた外国人の対応を行っています。大学時代に学んだ英語や韓国語はもちろんのこと、サークル活動やアルバイトなどを通して培ったコミュニケーション力が活かされていると感じます。

大学生活で学んだことや培った経験は、就職活動だけでなく社会人になってからも、きっとみなさんの糧になることと思います。今は興味のあることに積極的にチャレンジし、大学生活をいっぱい楽しんでください！



金澤 知香

株式会社ホテル京阪マネジメント

私は現在ホテルで働いています。仕事内容は、フロントで直接お客様と接する仕事もありますが、現在は、予約WEBサイトへ掲載する宿泊プランの作成、需要に応じて客室の販売価格を調整することや、販売する部屋数のコントロールすることなどの販売に関わる仕事をメインとしています。直接ホテルの売上げに関わる仕事内容のため、責任は大きいですがその分やりがいもあります。コロナ禍では客足が途絶えてしまった時期もありましたが、その後の様々な旅行支援策や、海外からの入国制限の緩和などにより、観光業はコロナ前と変わらないほどの賑わいをみせています。

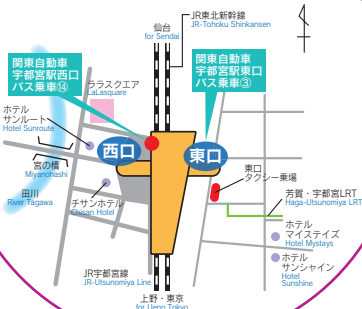
様々な国や地域の文化・価値観に触れ、学ぶ機会の多かった国際学部での学生生活を経て、広い視点から物事を捉えられるようになったと感じています。それは、多様な人と関わる機会の多い私の仕事で役立つのももちろんのこと、日常生活においても必要なことだと思います。

また、国際学部は自分の興味のあることについて学び研究することのできる、自由で魅力的な場所だと思います。是非皆さんも自分の興味を見つけ、有意義な学生生活を送ってください。

アクセス

宇都宮市内 Utsunomiya-shi

JR宇都宮駅周辺 around JR-Utsunomiya station



■ 宇都宮大学国際学部（峰キャンパス）へのアクセス

- 関東自動車：(真岡、益子、星の杜中学校・高等学校、ベルモール行など)
JR宇都宮西口バス乗り場、⑭番で乗車約10分
「宇都宮大学前」下車
東武宇都宮駅東口バス乗り場で乗車、約25分
「宇都宮大学前」下車
- 関東自動車：(卸団地循環線 星の杜中学校・高等学校行、ベルモール行)
JR宇都宮駅東口バス乗場③から乗車。約10分
「宇都宮大学前」下車
- タクシー：JR宇都宮駅東口乗場から約5分
東武宇都宮西口乗場から約15分

■ 宇都宮へのアクセス

- 電 車：

JR東北新幹線	東京から	約1時間
	仙台から	約1時間20分
JR上野東京ライン・宇都宮線	東京から	約2時間
JR湘南新宿ライン	新宿から	普通 約1時間50分 快速 約1時間15分
東武鉄道	浅草から	約1時間40分

 (新栃木で乗り換え、浅草～新栃木間特急利用の場合)
- 自動車：東北自動車道

東京から	鹿沼ICまで	約130km
	上三川ICまで	約130km
	(北関東自動車道利用)	
仙台から	宇都宮ICまで	約230km

<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>



宇都宮大学 国際学部

検索



宇都宮大学国際学部ホームページは学部紹介や教員インタビューなど充実した情報満載！
ぜひ一度見に来てください！

宇都宮大学国際学部 2024
Utsunomiya University School of International Studies 2024
2024年3月発行（記載内容は2024年3月1日現在）

企画・制作
宇都宮大学国際学部入学試験・広報委員会

発行
宇都宮大学国際学部
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL：028(649)5164 FAX：028(649)5171



UTSUNOMIYA
UNIVERSITY
MOBILE SITE

宇都宮大学国際学部

TEL:028(649)5164 FAX:028(649)5171
<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>